

なくそう貧困。命の水を！

アジアネット

JAFS

NEWS & REPORTS

2020年夏

142



緊急特集

新型コロナ禍の中で



since 1979

公益社団法人アジア協会アジア友の会
Japan Asian Association & Asian Friendship Society



● 主な目次 ●

「巻頭言」コロナウイルス禍に考える 02

緊急特集＝新型コロナ禍の中で

アジア各国から相次ぎ「SOS」—— インド／バングラディシュ／ネパール／シンガポール／マレーシア／カンボジア／フィリピン 04～10

JAFSの全イベント夏まで中止 11

緊急支援募金協力をお願い 11

「ガンジス川の風に吹かれて

インド仏跡巡礼の旅」④ 12～15

この人々に毛布を一インドの活動 16・17

「井戸ができた村」 18～21

2019年度活動報告／2020年度の事業

貧困対策／環境／水／子ども／国際交流／罹災者支援／サイクル・エイド／国内での普及啓発の各事業 22～30

2019年度 社員総会報告 31

新入会員紹介・領収報告 32・33

「新・the 社会貢献」 34

「環境コラム」 35

アジア協会アジア友の会とは

アジア18カ国に井戸を贈る国際協力団体（NGO）です。1979年に大阪で設立。誰もが生まれてきて良かったと思える社会を目指し、2020年3月現在、井戸建設（累計2113基）や植林（累計257万本）、子ども教育支援を中心に活動しています。全国都道府県認可の社団法人取得第1号団体です。2012年4月1日からは、内閣総理大臣の認定を受け、公益社団法人になりました。

海外との交流・協力活動は、インド、インドネシア、バングラディシュ、タイ、マレーシア、フィリピン、スリランカ、ネパール、韓国、カンボジア、シンガポール、ミャンマー、ラオス、中国、ベトナム、モンゴル、パキスタン、アフガニスタン、さらに西アフリカのブルキナファソにも広がり、友情のネットワークが形成されています。

日本国内でも、各地でチャリティープログラム、自然環境プログラムなどを行っています。

※ホームページ <https://jafs.or.jp>

本会へのご寄付は、寄付金控除の対象です

JAFSは内閣府より公益社団法人としての認定を受けています。JAFSへの寄付金や会費（社員会費は除く）は、申告によって、所得税、法人税、相続税について税制上の優遇措置（寄付金控除）を受けることができます。

確定申告の際、税額控除、所得控除のいずれか有利な方を選択できます。本会発行の領収書を添付して申告してください。法人税は損金の額に算入することができます。相続税は最寄りの税務署などにお問い合わせください。

巻頭言

COVID-19（新型コロナウイルス感染症）が世界を席捲（せきけん）しています。これを脅威と受け止めるか、社会変革のチャンスと捉えるかが問題です。本邦のPCRの人口1000人当たり検査数（4月28日現在）はOECD36カ国中35位、1位のアイスランド135に対して日本は1.8。感染対策を考えるうえで基本的なデータ不足は的確な対策が取れない原因となります。私の勤務病院でも発熱、味覚障害を持つ受診者のPCR検査が実施できない例が複数ありました。海外各国がコロナウイルス感染症の拡大に際して、いち早く検査数の増加ができたのにどうして日本はできないのか疑問です。

コロナウイルス禍に考える



藤原 正昭

JAFS 常任理事
行岡保健衛生学園 顧問

重症患者のためのICUベッド数も欧米に比べて大変少ないのも懸念材料の一つです。人口当たりの医師数はOECD36カ国中の32位と、国民皆保険で良質の医療を安く受けられる素晴らしい医療制度と考えられていた我が国の医療体制をもう一度考え直すいい機会です。

また経営難に陥った企業および生活苦に喘ぐ人々の救済などの急を要する問題解決のスピードが遅いと感じられてなりません。我が国は長い間戦争に巻き込まれなかったものの、多くの大規模災害に見舞われてきました。危機管理の行政機関の改革・創設、国民の理解のもと、さらに有効な保健衛生に関しては強制力のある緊急事態立法も必要でしょう。これは国会議員、政府、官僚に任せきりではできないと考えます。

さて、私はコロナウイルス禍が日本にも及んできた3月初旬にJAFS災害支援事業の一つ、ネパールのインドラワティ村の水供給事業のため現地を訪れました。この事業は在ネパール日本大使館に3年にわたる事業の全額援助（総額約1.5億円）を受けているもので、今回は2年目の契約調印式出席と現地視察が目的でした。村では水利委員会の人たちとの話し合いがありましたが、出席した数名の女性が活発に発言しているのに驚きました。農業委員会にも出ましたが、この委員会のメンバーは一人を除いて全員女性でした。その全員が読み書きに不自由ないようでした。インドでは女性の地位は低く、教育も男性に比べて十分に受けられていないと聞いており、事情はネパールでも同様だろうと考えていたので意外でした。2015年のネパール大地震後、JAFSの水供給事業と農業改善事業が当地で始まる前は、女性は家庭の外に出ることはあまりなかったとのこと。JAFSの事業が、村の人々の意識改革、女性の地位向上にも寄与していることは喜ばしいことです。この事業を通じて村の人々の生活が地震前よりもさらに向上することができると確信しました。

JAFS 会員綱領

私たちは、世界の平和と人間の基本的人権を守るために人々との「友情と信頼」に基づく「理解と協力と連帯」の輪をアジアと世界に広げます。

かかる目的をもって私たちJAFS会員は以下のことに努めます。

- 一、より人間らしい地球社会の創造をめざします。
- 一、アジアと世界の人々の幸せに奉仕します。
- 一、地球の自然環境を大切に守ります。
- 一、生活の無駄を省き、地球資源を大切にします。
- 一、これらの奉仕活動を通して、自分と他人の生命の価値を高めます。

以上

● プロフィール ●

ふじわら・まさあき 1950年大阪市生まれ。岡山大学医学部卒、同大学院で脳内神経伝達物質研究、医学博士。78年大阪大学脳神経外科入局。阪大病院医員、大阪厚生年金病院院長、行岡病院・医誠会病院脳神経外科部長、新大阪医誠会クリニック院長等歴任、現職は行岡保健衛生学園顧問。



新型コロナ募金によりインド提携団体RUDYAを通して村人に感染予防用ハンドソープが配られた＝5月20日、マハラシュトラ州

アジア各国から 次ぎ「SOS」

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）により、私たちの日常は大きく変わりました。これまでの当たり前が当たり前でなくなり、日本中が大混乱に陥っている最中に、JAFSには、バン格拉デシュやインド、ネパールなどから、支援要請のSOSが次々に入り始めました。アジアのこれらの国々では、感染が爆発的に広がったため、世界保健機関（WHO）から警告が出され、ロックダウンが実施されました。これらの地域では、定職のある人はわずかです。ほとんどが貯えもなく、日銭を稼いで暮らしています。ロックダウンに生活保障はありません。仕事に行けないことは、生活の破綻を意味するのです。各国から届いた便りを紹介します。

出稼ぎ者・学校、深刻な打撃

●インド 4月22日
ナンディニー・クンパール・カルナ
イタカ州コスモニケタン学園
誰もが最初はロックダウンを歓迎しました。早く収束させたいと思いました。数日は、ふだん時間がなくてできないような料理をし、家族とゆつくり過ごし、本を読んだりして楽しく思えました。家族と共にいる素晴らしい機会を与えてもらい、なぜ今までしなかったのか疑問に思ったほどです。女性

の役割は、働いていようと主婦であろうと家庭の生命線で、女性は家族の最大の支援者です。

でも、日が経つにつれて、ロックダウンの必要性に疑問を感じるようになりました。仕事に行き、友達に会い、買物に行くことができない虚しさから、多少の不安や落ち着かなさ、絶望を感じ始めました。

一日中独りでいると、将来に否定的な考えを抱いたり、混乱して恐怖を感じる時もあります。ヨガや瞑想、運動や睡眠、ネットワークにより社会とつながることが役立っています。

ある日、私は家族とテラスから町の様子を見てみました。人は少なく車も限られ、30年前の光景のようでした。私たちは、貧しい人を支援しなければなりません。出稼ぎ労働者は、より良い収入と生活を求めて大都市に移り住みました。日雇い労働で経済成長に貢献していますが、狭い部屋に10人で同居し、ひどい状況です。収入を得るために家庭の温かさをあきらめ、何カ月も家族と会わずに暮らします。

ロックダウンで生計を失った出稼ぎ労働者は、都市から去らなければなりませんでした。交通が止まり、遠く離れた家まで食べ物や水なしで尊厳もなく、歩かざるを得ませんでした。

いくつかの団体は貧しい出稼ぎ家族に食料や日用品を提供していますが、この悲惨な状況から抜け出すのは非常

に困難です。これらの人々がより良く生活できるよう支援をお願いします。

学校は全国で休校となっています。教育者は皆、子どもたちの学習が中断されることのないように願っています。オンライン授業システムを導入した学校もあります。実際の対面授業にはかきませんが、教師と生徒が画面上で互いの顔を見ながらコミュニケーションし、遠隔授業ができます。

しかし、私たちコスモニケタンの学校にそのような設備はありません。村の貧しい子どもたちにとって非常に困難な状況ですが、教師は携帯電話で連携しています。

医療従事者の尽力が国民の賞賛に値する一方で、教師は子どもたちがこの悲惨な時期を健全に乗り切れるように、満身に手助けできているでしょうか。ロックダウンにあたって教育が不要不急であると宣言されたとき、教師は、これまでの学校教育が評価されていないと感じざるを得ませんでした。

オンライン教育はしかし、従来の教育に代わるものではありません。教育はまず何よりも、共感力、批判的思考、創造性、基礎体力など、人が社会で生きていくための力をつけるためのものです。第二に、子どもが成長の本来の目的である独立性を育むためのものであり、集団との関わりの中で他者への理解と思いやりを持った意思決定の訓練が必要です。

ロックダウンは、これまで重要であると考えていたことを再認識させてくれました。学校に集うことで生まれる

社会性や、カバディやサッカーなどのスポーツで育まれる組織力、また休みの時間のけんかから学ぶ問題解決力を見失ってはいけません。これらは教育に不可欠な真髄です。オンライン教育と区別される点です。

また、中学校卒業認定試験を控える10年生は、試験自体のストレスよりも、試験実施がどうなるか分からない不確実性に不安を感じています。試験は延期されており、新しい日程はロックダウン終了後に発表となるため、多

生徒と家族に薬と日々の食料を

●バン格拉デシュ 4月12日
アムブローブ・ゴメス BDP
(Basic Development Partners)
すべての人が新型コロナをとっても恐れています。

バン格拉デシュは非常に小さな国ですが、人口は膨大です。衣料品縫製工場では非常に多くの人々が働いていますが、衣料品が国の主要な輸出品で、第2の輸出品は労働力です。これら2つが新型コロナによって悪影響を受けています。すべての衣料品工場は閉鎖され、直接関わる約100万人（主に女

くの生徒が、1年かけて受験勉強してきた試験の実施を待ちわびています。

ロックダウンのため、生徒は集まって一緒に勉強したり、教師に質問したりできなくなっています。試験当日の会場では感染防止対策として、消毒剤を備え、人々の距離を保ち、マスクを着用することが要請されています。

現在、州のローカルテレビではカナダ語で、数学と科学の復習用授業を10年生向けに放送しており、英語の授業も5月9日から始まります。そして1年生から9年生向け授業の放送も、7月か8月に開始されるかもしれませんので期待しています。

性）が失業しました。彼らは工場から給料をもらっていませんし、食料も日用品もない日々を過ごしています。ほとんどの地区がロックダウンを宣告され、地方行政は人々に外出せず家にいるように命じました。

BDPは、5地区に6つの活動地があります。私たちが支援する生徒は非常に貧しい家庭の生まれです。彼らの親は、日雇い労働者か人力車夫か、小さな店をやっているか、非常に小規模な農家です。教育費を払う必要のある学校に子どもを行かせる余裕はありません。BDPはそのような子どもたち

アジアの新型コロナ感染症 累計感染者数と累計死者数

WHO（世界保健機関）など調べ

	感染者数	死者数
インド		
5月5日時点	46,433	1,568
6月19日時点	381,091	12,604
インドネシア		
5月5日時点	12,071	872
6月19日時点	42,762	2,339
カンボジア		
5月5日時点	122	0
6月19日時点	129	0
シンガポール		
5月5日時点	19,410	18
6月19日時点	41,473	26
タイ		
5月5日時点	2,988	54
6月19日時点	3,141	58
ネパール		
5月5日時点	82	0
6月19日時点	7,848	22
バングラデシュ		
5月5日時点	10,143	182
6月19日時点	102,292	1,343
フィリピン		
5月5日時点	9,684	637
6月19日時点	27,799	1,116
マレーシア		
5月5日時点	6,383	106
6月19日時点	8,529	121

が教育を続けられるように無料の学校を創設しました。しかし現在、その教育は休止しています。親の収入も途絶えています。

家族中が非常に困難な状況にあります。彼らは今何をすべきか分かりませ



ん。政府は食料支援をしようとしていますが、とても不十分です。BDPは、彼らに寄り添うべきだと思えます。しかし資金がありません。

新型コロナウイルス感染症はすでに全国に広がっており、実際は報道されているよりも危険な状態かもしれないと私たちは疑っています。病院は公立私立を問わず、最善を尽くしています。政府は非常に警戒して対処していますが、すでに市中感染が始まっており、非常に危険です。感染者は増えており、

水インフラ構築事業遅れの懸念

●ネパール 4月15日

中川寛子ⅡJAFSネパール事務所駐在

3月24日からネパール全土のロックダウンが始まりました。当時、感染者数は1桁台と少ない状態でした。医療機関は数が限られ、首都カトマンズから遠く離れた地域では、ない場所もたくさんあります。そのため、政府は早くからロックダウンで感染拡大を防ぐという措置に出ました。

カトマンズに出稼ぎに来ている日雇労働者は、仕事を失って食べていくことができず、厳しい現状です。ロックダウン前に長距離バスで故郷へ戻った人もたくさんいましたが、戻れな

況は悪化しています。現在、生徒とその家族に2つの重大な課題があります。①コロナウイルスから保護し ②生きるための食料を与えることです。そこで入手可能なら、マスク、手袋、一般薬を提供しようと考えています。また各家族に少なくとも10日分の食料を配りたいと考えています。生徒の親が私たちの事務所にやって来て、生徒のために何かしてくれよう頼んだのです。少しでも役に立てるなら非常にうれしいです。

った人の中には何日も歩いて故郷へ戻ろうとする人もいたようです。

現在JAFSは大きな事業としてシンドゥパルチョーク郡インドラワティ村10区（旧ボテシバ村）という2015年の大地震で影響があった農村地域で、水インフラシステムの構築と農業プログラムを行っています。コロナウイルスの影響で活動できない状況が続き、今後の地域開発が遅れることを懸念します。

また、水が十分でない村で感染予防のために手をしっかりと洗うことができません。私たちがしている水インフラシステムの構築は生活用水、農業用水のみならず、公衆衛生環境の改善にもつながることにあらためて気づかされ

ます。早く建設作業を進めたいですが、なかなかそうもいかずもどかしい気持ちです。

そんな中、4月6日にJAFSとAFSネパールで、ボテシバ村内のヘルスポスト（村の小さな医療機関）に支援物資を届けました。ベッドに敷くマットレス6つ、枕6つ、ウォーターサーバー1つ（ヘルスポストの隔離施設準備のため）、村内各集落と3つの学校に計23個の担架（各集落から病人が出た際に隔離施設まで運ぶため）などです。行政も予防策や準備をしていますが、今回は行政ができない物資を支援しました。

村ではカトマンズや海外に出稼ぎに出ていた多くの人が戻ってきました。彼らは収入源がなくなり、今後の生活はどうなるのか気がかりです。この新型コロナウイルスの影響でますます貧富の差が広がるのではないかとも思

医療がひっ迫、家で暮るストレス

●シンガポール 5月11日

エドワード・オンⅡAFSシンガポール

新型コロナウイルスが国内に広がり始めたときは十分に制御されており、感染者は50人未満でした。6週間後には約1万2000人と増え続けています。



ボテシバ村の医療機関に渡された支援物資＝4月6日、ネパール、シンドゥパルチョーク郡

ます。しかし、村に戻ってきた若者たちが今後、何か村で活躍できる場を生み出すことも可能になるかもしれません。私たちの活動が早く再開でき、ネパールのみならず世界中の人々が早く元の日常が送れるよう願っています。

過去7日間は1日平均1000人の新規感染者が発生しています。小さな都市国家にとって、非常に深刻です。非常に多くの海外からの出稼ぎ労働者、留学生、家族が休暇から戻ってきたことが原因でした。3月7日以降、私たちはロックダウン状態にあります。非常に重要で必要な業務を除いて、

入国は許可されておらず、国外への旅行は中止されています。何千ものフライトがキャンセルされました。空港、道路、バス、電車、ショッピングセンターなどどこもとても静かです。多くの小売企業は大損失を被っています。

医療体制がひっ迫しているため、非常に深刻な症状でない限り、人々は病院に行くことを思いとどまっています。発熱、せき、インフルエンザの報告があった人を対象に数千の検査が行われました。過去1週間で、海外からの労働者は全員検査され、感染者が急増していることが分かりました。

ロックダウン中は、家に留まって仕事をし、人と会ってはなりません。すべてのオフィス、ビジネス、商店は閉鎖する必要があります。一人での外食

や生活必需品の購入、医療受診などのための外出は許されていますが、マスク着用が必要です。市場、フードコート、レストランは営業していますが、持ち帰りのみです。商店で買う品数は、買いだめを防ぐため制限されています。オンライン購入が人気になり、配送サービスは非常に好調です。

最低1mの社会的距離を維持しなかったり、正当な理由なく外出すると、重い罰金が課されます。繰り返し違反すると刑務所行きです。それでも、従わずに捕まって罰金を支払わなければならない人がいます。すべての人に、定期的な手洗い、手の消毒剤を使うことが奨励されています。

当然、不便ですストレスです。しかし私たちはルールに従うことを学び、自分自身や家族、友人のためだけでなく、他人にも配慮する必要があります。医療とヘルスケア労働者、社会的に必須の職業従事者は睡眠不足と重圧下で懸命に働いています。多くの犠牲を払いリスクを負うヒーローです。

学校、大学、トレーニングセンターでは、オンライン授業をしています。教会や寺院も閉鎖されており、礼拝はオンラインになっています。ビジネスでも、会議は様々なソーシャルメディアでオンライン開催されています。ラジオやテレビには、今までよりも多くの教育・娯楽番組があります。

ロックダウンにうまく対処できた人

は、今までしなればと思っていたけどできなかった、家族とのきずなを深め、大掃除をし、古いものを片付け、世界のニュースを読んだり勉強したりしています。多くは靈的になり、めい想と祈りに時間を費やしています。しかし、家庭内でのめめごとが増えていくという報告もあります。

ロックダウン中の中国・武漢と湖北省全体の写真とビデオを使った報道がありました。怖くてとても哀れでした。しかし政府の厳格な管理と市民の協力のおかげで、悲惨な状況はすぐに制御されました。彼らは現在、ある程

ロヒンギヤ難民の安否がかり

●マレーシア 4月30日

フランチェスカ・リム・チャイ・ホンII AFS ペナン

たとえロックダウンでも、家に居る夫と共にとても忙しく、積み残してあった仕事、特に書類作りを片づけています。夫がたくさん手伝ってくれています。

ロヒンギヤ難民の仕事は、私を大いに悩ませています。難民登録されていないまま隠れ住んでいる人がいて、また、コロナウイルス陽性者かもしれないからです。UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）と緊密に協力していま

度の自由を楽しんでいます。このために第2波の流行が起きる恐れがあります。

非常に小さな国であるシンガポールは、状況をよりよく制御できるはずであり、初期の段階で制御したと考えられるかもしれません。しかし、数百万の訪問者や観光客が来る東南アジアの金融・ビジネスの中心であるので、非常に難しいことでした。

神の恵みと慈悲、当局による管理、人々の健康管理によって、予想以上の迅速さでワクチンが開発されることを私たちは強く祈ります。

す。

ロックダウンにより彼らは仕事をすることができない（許されない）ため収入がなく、家族を食べさせることができません。ほとんどの家族は6〜7人以上です。

ロックダウン7週目に入り、毎月の配給食料はすでに底をついています。「家にいることが安全を守ること」と、まだ誰もが誰にも手を差し伸べることができていません。彼らが無事であることを祈るのみです。彼らは私と連絡を取り助けを求めますが、すべて我慢の時であり、政府の活動制限令次第なので、時を待つしかありません。

（心的外傷後ストレス障害）を招く可能性があり、すべて正常に戻った際には精神療法が無料で提供され利用可能である必要があります。なぜなら家に居ると、例えば家庭内暴力の増加などがあります。

◇農村部の人々の意見

タケオ州での調査から、特に工場が閉鎖されて労働者が失業しているため、多くの世帯が収入を失っているこ

首都封鎖が恵まれない人々直撃

●フィリピン 4月27日

ジーナ・ヤップII AFS ソルソンゴ

フィリピンでは今年初めにルソン島

私が活動制限令下で見た変化は、次のようなことです。

交通がなくなった／燃料が安くなった／支払期限が延期された／子どもたちは家族と共に家にいる／保護者は家で子どもたちの面倒を見る／ファーストフードから家庭料理に変わった／多忙なスケジュールが昼寝・休息・リラクゼーションに変わった／空気が澄ん

工場が閉まって失業、食料不足に

●カンボジア 5月11日

ロン・チョンII KAFS

新型コロナのさらなる拡大を防ぐために政府は、ロックダウン、社会的距離、学校、店舗、映画館、遊園地、工

で見える／世界が静かになった／人々が（難民でさえ）衛生と健康を意識しています／お金ではもう世の中は回りません／デザイナーの服は無意味です／スポーツ選手や著名人に代わって医師・科学者・看護師が認識され称賛されている。

そして今やっと、立ち止まってバラの香りを嗅ぐ時間を持てます。

場、レストランなどの閉鎖を含むさまざまな深刻な対策を講じてきました。

その結果、何百万もの人々が仕事を失い、日常生活で深刻な困難に直面しています。都市部と農村部の人々に、調査とインタビューをしました。次のような意見が寄せられています。

◇都市住民からの意見

新型コロナの発生以来、特に社会的距離が求められ、人生が劇的に変化しました。自

人出が減ってひっそりとした街 5月13日、カンボジア、プノンペン



とがわかりました。人々は食料不足に直面し、ある者は、家畜を飼育したり家の周りに作物を植えたりしています。

さらに電気代、水道代、医療費、小口融資ローンの利息などの負担があります。無駄な経費を削減しなければなりません。人々は、こうした生活に必須な支払いに対し、政府に支援と救済を求めています。

での洪水、ミンダナオ島での激しい地震、ポリオの流行の再発、タール火山の噴火、そして新型コロナウイルスと一連の災害が続きました。

3月23日、議会は、新型コロナウイルス感染症から生じる国家緊急事態の存在とそれに関連する国家政策を宣言する法律を制定し、ドゥテルテ大統領に、新型コロナ緊急事態に対処するため、より多くの緊急権限を与えました。その後、ルソン島全体の完全な封鎖が発表され、すべての空港が閉鎖され、マニラ首都圏とルソン島で地域隔離策が強化・実施されました。

集会なし、授業なし、交通機関なし、仕事なし、商売なし、そしてみんな在宅です。許可されたのは、食品市場、食料品店、薬局、銀行などの最も重要な活動のみでした。

夜間外出禁止令は10時間施行され、厳密な衛生管理と社会的隔離が促進されました。人々は、手を洗う、マスクを着用する、距離を置く、そして家にいるように言われました。15日後、地域隔離策は全国的に実施されました。日銭を稼いで生活している何百万人もの人々、社会保障のない仕事に従事している人々、海外で働き故郷に帰れなくなった労働者、ホームレスたち、満員の刑務所にいる人々、そして以前の災害で既に避難した人々。彼らの窮状は言うまでもなく非常に悲惨です。

食料品が地域に配布されましたが、

1週間も持ちませんでした。スラム街や人口密度の高い都市では、ロックダウンは耐え難いものです。

1カ月後、地域隔離策は5月15日まで延長され、感染率が高いハイリスク地域では、ロックダウンが強化されました。より多くの軍関係者が通りにある検問所に配置され、通行許可証を持つていない人を検挙するなど、厳格な外出禁止令が施行されました。政府は、治療法やワクチンがまだないため、流行に対処する保健機関の能力を構築する必要があることを繰り返し表明しました。経済がダウンしているため、社会改善プログラムに提供できるお金もありません。政府は借金したり、資産を売却したりします。

感染者は毎日数百人増えましたが、報告された陽性者の半分以上は回復で



通常の乳児予防接種はロックダウン中でも優先的に再開 = 4月29日、フィリピン、カビテ州

きました。保健施設が格上げされ、体育館とスポーツ施設が緊急病棟に改造されました。政府の資源が迅速に動員され、地元と国際的な寄付者のおかげで、検査センターが設置されました。フィリピン大学は、地域隔離策が成功したと報告しました。感染の急速な拡大を防ぎ、感染拡大を頭打ちにするのに効果的でした。国は現在、景気が再び持ち直せるように、ロックダウンを徐々に緩和する準備をしています。

しかし新型コロナウイルスは依然として大きな脅威で、予防策は続ける必要があります、危険な地域の自治体は警戒を維持し、感染の大量発生の可能性に備えるために依然として強化されています。4月26日、内閣官房長官により、新しい生活様式が一般的なコミュニティ隔

必需品買えるのはお金持ちだけ

●フィリピン 4月27日

エロイサ・クナナンII KALIPPI

これまで日本の皆様から寄贈されたすべての井戸に感謝の意を表したいと思います。無料のきれいな水源は、たとえそれが「直接」命を救わなくても、貧しい人々の生活を本当に楽にしました。きれいな水は、喉の渇きを癒し、水分を補給するだけでなく、特に

離になることが発表されました。これはまだ隔離を意味しますが、一部のセクターは移動を許可されます。この戦略がよいのか悪いのか？それはまだ分かりません。

人道的緊急対応は、医療従事者の防護具の装備、医療施設の検査能力の拡大、および脆弱なグループへの食品パッキングの配布を支援するために進んでいます。特に農村地域での食料生産、地方復帰プログラム、水と衛生、生活支援などを支援する計画があります。

フィリピンと世界は、通年または2021年までにワクチンが利用可能になるまで緊急対応モードにあり、人類は最終的にはパンデミックから立ち直り、より良い方向に変化することが期待されています。

この新型コロナウイルス大流行の時期に適切な衛生状態を保つためにも非常に重要です。手洗いは疾病予防の最も重要で最初のステップであり、寄贈された井戸により、受益者はいつでもきれいな水を得られます。

安全な水は、通常貧しい地域では手の届かないところにあります。多くの場合、お金を払って買う必要があります、最終的には衛生習慣を身に着けるのが

難しくなります。適切な衛生管理が困難なため、最も貧しく最も弱い人々がリスクにさらされます

新型コロナウイルスが、平均的な人々と貧しい人々双方の生活をどのように変えたかについて、もっと話しましょう。

伝染を防ぐには、家庭と公共の場の両方で、適切な健康と衛生の手順を一貫して実行する必要があります。当局は、大規模な集まりを避け、公共交通機関の使用を避け、地域隔離措置に従い、病気になるときは迅速に医師の診察を受けるよう助言しています。すべて適切な注意喚起ですが、重大な問題が1つあります。貧しい人々はこれらに従う余裕がありません。

多くの仕事には有給の病気休暇がありません。出来高払いや時給の非正規労働者は、特に脆弱です。自宅で仕事することは、すべての労働者ができる選択とはなりません。大量輸送交通では混雑は避けられません。危機的状況では、非正規労働者の多い貧しい女性や少女が最も影響を受けます。そのうえに無給の介護や家事をすることを期待されています。

多くの店や工場は経済へのショックを吸収することができないので、操業を停止するか閉鎖する必要がありますかもしれません。石けん、アルコール、基本的な食料品などの必需品の買いだめは、市場価格を引き上げ、さらに手が届きにくくなります。コロナ禍で失業し

ている貧しい人々や一般の人々が食料や医薬品を買い、ビタミンを補給することは不可能です。健康、衛生、免疫システムが大きく損なわれています。

ほしだけ買う余裕のある人だけが、最適な栄養と衛生用品を手に入れます。貧しい人々は、まだポケットに持っている少しのお金や非常に少ない政府の助成金で手に入れることができるものや、今持っているものを死守しなければならぬでしょう。

この財政問題への政府の対応は、貧困層とみなされるか、パンデミックによる経済危機の影響を非常に受けやすい世帯あたり5千〜8千ペソ（1万円〜1万7千円相当）を提供することです。ただし、これは1回限りです。大統領は、このパンデミックが悪化し続けるなら、国の資金が非常に少ないため、別の補助金を再度提供する方法はないと述べました。

したがって私たちKALIPPIが新型コロナウイルス禍にある貧困層を支援する場合、最優先事項は、食品、衛生用品、免疫を高める栄養剤です。また、貧しい人々は具合が悪くなっても村から遠くの町の病院に行くことができないため、救援・救助活動もできるよう、多目的緊急車両または救急車のようなバンを切に求めています。

（翻訳・編集スタッフ・大本 和子
JAFFSスタッフ・川本 裕子
JAFFSスタッフ・坂口 優）

ってどんなに苦しいことでしょう。新型コロナウイルスは、日本だけでなく、世界のすべての国の状況が改善されなければ、元の暮らしには戻れません。すべてがつながっているのです。このような時だからこそ、支えあうことが重要だと思います。

アジア各国は日本以上に、新型コロナウイルス終息までの道のりが長くなると考えられます。そのためJAFFSでは、期間を区切りながら対応する予定です。

衛生的な状況下にはいない人々が、まだまだ多くいます。現地の衛生状態の確保が感染防止にもつながります。当会の原点である「井戸を設置して清潔な水を贈る活動」が、今後さらに急務となるでしょう。

全イベントを今夏まで中止

JAFSの対応

JAFFSでは2月20日から活動自粛を始めました。大人数のイベントや国内外への不要不急の出張などをまず取りやめ、3月からはすべての主催イベントを中止しました。

国の緊急事態宣言が出された4月7日から5月末まで、事務所の開所時間を短縮し、2人体制の交代出勤として在宅勤務を取り入れました。一部の委員会は年度変わりの時期であるため実施しましたが、5月の理事会は書面決議（みなし理事会）としました。大阪をはじめ近畿地方は5月21日、東京・首都圏より一歩早く緊急事態が解かれましたが、JAFFSは夏の恒例行事「土と水と緑の学校」の中止を決め、学校や企業から受託する海外研修・ワークキャンプなども、今年度前期の分は全て中止と決めました。

当会にとって、さまざまなチャリティイベントや会合は、ボランティア活動の核となるものです。活動資金がほ

新型コロナウイルス緊急支援募金にご協力を

日本の皆さんが大変な時に募金をお願いすることをためらっていたために、スタートが遅くなりましたが、JAFFSは、新型コロナウイルスの脅威にさらされているアジア各国の人たちを緊急支援するための募金活動を始めました。

まずは生存の確保です。すでにインド、バングラデシュへの支援を始めました。世帯分の食料パックを作り、配布していきます。ネパール、フィリピンにも、少しでも早い支援を待ち望んでいる人々がたくさんいます。

在日留学生も支援

日本へ留学しているアジア人学生へのサポートも、併せてすることにしました。現在、日本には約31万人の留学生がありますが、特に私費で留学している学生の多くは、アルバイトで生計を立てています。アルバイトができないだけでなく、母国から送金してもらえない人たちが多く、誰にも助けてもらえない状況なのです。今回のコロナ募金から、一人3万円をサポートさせていただきます。一人でも多くの困窮している留学生を救う一助になればと思います。

お問い合わせは JAFS 事務局(熱田・坂口)へ

郵便振替 00960-6-10835 アジア協会アジア友の会
三菱UFJ銀行中之島支店 普通1007011 シャ) アジア協会アジア友の会



特別寄稿 加藤 千洋
(元朝日新聞アジア総局長)

インド仏跡巡礼の旅①

ガンジス川の 風に吹かれて

『大地のうた』を想起させる農村のいま

ガンジス川中流域のヒンドスタン平原に位置するビハール州は、紀元前1000年頃から農耕や牧畜が営まれたとされるインドの代表的な農業地帯で

ある。また同州と周辺には仏教の開祖お釈迦さま(釈尊)の生誕の地、修行の地、悟りを開いた地、そして入滅の地など重要な仏跡が点在する。2月、その聖蹟巡礼を志す同行者とともに菜の花が盛りの田園地帯をバスで旅した。

懐かしさと、都市との格差と

沿道の農家の庭先では子供たちが放し飼いのヤギに混じって遊び、傍らでワラを食んでいた牛がウロウロと道路にはみ出すこともあるが、バスの運転手は警笛など決して鳴らさない。腰骨が浮き出るほど痩せていても、この国では神の使いの聖なる牛なのだ。

初めてインド農村と本格的に出会う旅だったが、妙に懐かしく感じられたのはなぜだろう。そうだと、ひとつ思い当ることがあった。
この国に関心を持つきっかけを与えてくれたのは、学生時代の1960年代末に観た名匠サタジット・レイ監督の映画『大地のうた』だった。50年代半ばに制作された白黒映画だが、描かれていたのは1920年頃の時代。ということとは1世紀前のベンガル地方の農村だ。

実際に見た現代のビハール州農村と、かなり前に観た百年前のベンガル農村とが、違和感がないというか、むしろ

しろダブってさえ見えたのである。

2月下旬のインドは乾季が終わりに近い、暑くも寒くもないベストシーズンだ。参加したのは法相宗大本山興福寺が企画した「インド六大仏跡と世界遺産を訪ねる旅」。総勢11人で、興福寺から高僧と2人の若い僧が同行した。記者時代にインド出張が2度ほどあったが、訪問先はデリーやムンバイ(ボンベイ)など都市部ばかり。次は農村をぜひ見てみたいと願っていた。そんなこともあり、出発前に二つの目標を立てた。

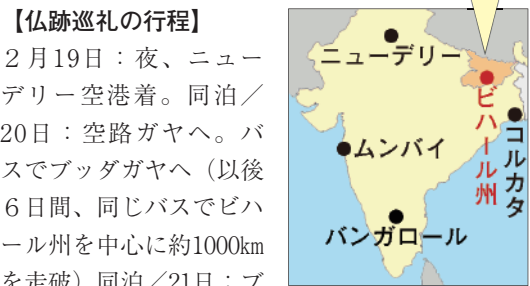
一つは日々研鑽にいそむ仏徒らと

釈尊の聖蹟を訪ねるというまたとない機会を活かし、日本などアジアの国々に大きな宗教的、文化的影響をもたらした仏教とは、そして釈尊の事績をより深く知りたいと考えた。

もう一つは、「次の経済大国」といわれて久しいインドと中国の、何か新しい比較の視点を発見できないかだ。

記者として長く中国報道に携わってきたことだわりでもあった。
車窓からの見聞程度でいったい何がつかめるのか。大それた目標ではあったが、主要幹線といいながら未舗装区間が多い道路をバスに揺られ、高速道路網を急速に整備した中国との大きな

ニランジャナー川と釈迦が修行した川向こうの山。釈迦の行く手を阻んだといわれる流れは乾季で干上がっていた



【仏跡巡礼の行程】
2月19日：夜、ニューデリー空港着。同泊／20日：空路ガヤへ。バスでブッダガヤへ(以後6日間、同じバスでビハール州を中心に約1000kmを走破)同泊／21日：ブッダガヤ、ラージギル、ナーランダ。ラージギル泊／22日：ラージギル、ヴァイシャリ、クシナガル。同泊／23日：クシナガル、国境超え、ランビニ(ネパール)。同泊／24日：ランビニ、国境超え、ウッタール・プラディシュ州ウラナシ(ベナレス)。同泊／25日：ウラナシ、サルナート、ウラナシ。空路ニューデリーへ。同泊／26日：ニューデリー参観後、深夜便で空路日本へ。機中泊。

違いも体感できた。移動中にあかず眺めた沿道の農村風景や人々の暮らしの様子も興味深く、いくつか新しい比較の視点がつかめたような気がした。
そこで(上)では最初の目的に即した話を、(下)ではインドの非都市部も見えた上での、私なりの印中比較論を試みたいと思った。

まず1週間の旅の行程は別掲の表と地図で確認していただきたい。

旅の出入りはニューデリー。20年ぶりの再訪だったが、地下鉄やハイウェイが出現し、近年の経済成長に支えられて街並みもかなりモダンになった印象だった。トランプ米大統領の訪印にも重なり、IT産業を先導役にした新興工業国としての発展ぶりが、世界から注目されていることがうかがえた。

ところがである。翌日からのビハール州の旅では違った印象を持った。インドの案内書の多くは、1億に迫る人口を抱える同州を「経済的な後進地域」で「最貧困地域」と描く。やや古いデータだが、『アジア研ワールド・トレンド』(2011年4月)によれば、同州の一人当たりの経済水準(純州内生産)は、先進州に比べると4分の1にとどまる。

公衆衛生面で気になったのは、生活ゴミが到るところで投げ捨てられていたことだ。水道の普及もまだまだで、井戸の利用が目立った。インド航空(AI)国内線の座席にあった政府の

広報資料によれば、衛生的なトイレにアクセスできる住民は、ビハール州は30%に達していない。インド全体では5億人以上が野外で用を足しているとの国連児童基金（ユニセフ）の201

5年調査もある。
バス旅の途中、我々もやむなく林の陰に入って用を済ませたことがあった。同行のインド人のガイド氏に聞く
と、「朝夕、それぞれが畑や川に行き



釈迦悟りの地に建てられたマハーボディ寺院で「五体投地礼」を繰り返すチベット人たち

ますね」と平然と答えた。

『大地のうた』ではどう描かれているか。目がクリッとした主人公の少年オプーとサリー姿のやさしい姉。彼らがどうしていたかは思い出せないし、描かれていなかったのかもしれない。おそらく2人の質素な家にはトイレはなかったに違いない。

こうした伝統の風習の背景には国民の8割が信仰するヒンドゥー教の「浄と不浄」の思想も影響しているようだ。以前目にした朝日新聞ニューデリー特派員の記事（2917年10月26日）によれば、地方で家を建てる際、ヒンドゥー僧侶に「トイレは家にあつてはならない」と忠告されることがあるという。「浄と不浄」の考え方は我々とはやや異なり、牛のフンは不浄とは見なされず、宗教儀式や日常の燃料として重宝される。バスの窓から見た農家の土壁に、牛フンをせんべい状に丸めて干す光景を頻繁に目撃した。

そういえばJAFSの『40周年記念誌』によると、JAFSが最初に取り組んだ『インドに井戸を贈る運動』の対象地は西部マハラシュトラ州ナグプール県とビハール州サントラルパルガナス県だった。いま現地はどうなっているだろう。活動40周年の節目を機に、生活環境がどれくらい変わったのか、変わらないのか。「成果検証の旅」などというプロジェクトがあってもいいのではないか。

菩提樹の下で釈迦をしのぶ

さて巡礼の旅に戻ろう。行程すべては書ききれないので、印象に残った2、3か所にしぼる。

正直に告白すれば、熱心な仏教徒とはとても言えない私の知識ははなはだ乏しかった。旅立つ前に知っていたのは「お釈迦様は誕生してすぐ天上天下唯我独尊と言った」だとか、「悟りを開いたのは大きな菩提樹の木の下の下だった」くらい。それに関連して修行でやせ衰えた釈尊に村の少女が乳粥をあたえ、やっと川を渡り切って対岸の菩提樹にたどり着いた、という逸話も聞いたことがあった。

山にこもり、果実や草の根、苔などの食物と水だけの断食を繰り返すなど6年間の苦行をしても悟りに至らず、やむなく山を下る。この時のあばら骨が浮き出た姿は「苦行釈迦像」として知られる。

行く手を阻んだのは尼連禪河。現地名はニランジャナー川。少女の名はスジャータ。この話を聞かせてくれたのは京都の知人の僧侶だったが、現地を訪ねた彼は川で砂を拾い、京都に戻ってから窯で焼いた皿に天の川のような形に振りかけた。その巡礼記念の皿はともしやれたデザインで仕上がっていた。

ブッダガヤで見たかったのは、この川と山、そして菩提樹。もちろん何代

目かの子孫の木だろうが。

ニランジャナー川は乾季のために涸れていたが、雨季には数百メートルの川幅いっぱい流れ、やがてガンジス川に合流するという。

堤に立った我々は、川向こうに独特の姿でたたずむ修行地の山に向かって合掌し、般若心経を唱えた。

つぎにマハーボディ寺院に詣でた。2500年前に釈尊が悟りを開いた地に、4世紀ごろに建てられた古刹である。2002年に世界遺産に登録される以前からアジア各地の敬虔な仏教徒が一度は訪ねたいと願う聖地で、この日も白や黄などの衣装に身を包んだ巡礼者であふれていた。

目を引いたのはエンジ色の僧衣姿のチベット人たちだ。境内に30〜40本はある大きな菩提樹の下に布や板を敷き、手と両膝、額を地面に投げ伏す「五体投地礼」を一心不乱に繰り返している。

その姿を見て、ふと釈尊の教えがアジアへと広がった道筋を思い浮かべた。まずヒマラヤの高峰を超えてチベットに伝わり、やがて中国、朝鮮半島へ。そして6世紀半ばに日本列島にたどり着き、受容される。海の道でも東南アジア世界に広がった。本家インドではヒンズー教に圧倒され、仏教徒はいま全人口の1%程度にすぎないが、最近、若干増えているとの話も耳にした。



聖地ワラナシのガンジス川で沐浴する夫婦

さて皆さんも気になったと思うのだが、当時、アジア各地ではすでに新型コロナウイルス感染症が広がり出していた。ただ入出国時に空港で特別の検査はまだ行われていなかった。

マハーボディ寺院のシンボル、赤砂岩で築いた高さ52mの大塔を時計回りに3回めぐる巡礼者にもマスク姿が目立った。我々もマスクを付け、裸足になって後に続いた。それを終えてから、釈尊が座ったあたりと目星をつけた枝ぶりが立派な菩提樹の下に向かい、落ち葉を拾って聖地巡礼の土産とした。

そうそう、ブッダガヤには日本の仏教界各宗派が協力して建てた「日本寺」があり、翌朝、近くのホテルに泊っていた私は、この寺の鐘の音で目覚めた。

もう1カ所の仏跡に触れておきたい。古代インドの仏教大学の遺跡があるナランダだ。釈尊も説法で何度か訪れ、その縁で5世紀に仏教研究・教学の中心として大学が創建された。世界からの留学生を含めて学生数は1万人を数えたという。あの『大唐西域記』を著した中国の唐僧・玄奘三蔵も6年近く滞在し、そこでの見聞を書きとめている。

12世紀にイスラム教徒によって破壊されたものの、近年、広大な遺跡跡の修復工事がすすめられている。一角に玄奘の宿舎と推定される二畳ほどのスペースのレンガ造りの部屋があり、しばし往時をしのんだ。

混沌の聖地ワラナシに呆然

釈尊の生誕地ルンビニへはインドと

ネパールの陸上国境を徒歩で通過した。出入国事務所の手前でバスは渋滞に巻き込まれ、仕方なく徒歩に切り替え、バスは後からその日の宿に來てもらった。

インドに再入国する際も同様だったが、そこから私たちは一気に350キロ南の聖地ワラナシへと急いだ。だが工事・事故・踏切渋滞などに遭遇。なんと14時間の長旅となった。

疲れ切つてはいたが、翌朝5時前に起床。夜明け前に聖なる川ガンジスをめざした。陽が昇る前なのに沐浴をする人、ひたすら祈る人、花売りの少女、細い腕を差し出す物乞い、軒下にごろりと横たわる野宿者……。そこに餌をあさる野良犬や牛がうろつく。いかにもインドらしい混沌の世界に、私はしばし呆然と立ちすくんだ。

◇

かとう・ちひろ 1947年、東京生まれ。東京外国語大学卒。1972〜2010年、朝日新聞社で大阪社会部記者、北京特派員、アジア総局長（バンコク）、中国総局長（北京）、外報部長、論説委員、編集委員等。2010〜2018年、同志社大学大学院教授。2018年から平安女学院大学客員教授。1999年度ポーン上田記念国際記者賞を受賞。著書に『胡同の記憶 北京夢華録』（岩波現代文庫）『北京&東京 報道をコラムで』（朝日新聞社）など

この人々に

インドAFSナグプールが
ホームレス、スラムへ支援

毛布を！



インドのマハラシュトラ州ナグプール市にあるJAFSの提携団体AFSナグプールは今冬、貧しいホームレスの人々への緊急支援を始めました。同市内には、スラムの子どものための教育を支援するチャイルド・アカデミーがあり、路上にビニールシートで屋根を張り、かろうじて雨露をしのいで住むホームレスの人々がいます。冬でも最低気温が10℃を下回ることはありますが、暖かい服を持ち合わせず、足元は冬でも裸足かサンダル履きの人々には、十分寒い環境です。

この人々が少しでも暖かく冬を越せるように、1月に毛布を配りました。写真左。皆、生活の厳しさからか、無表情のまま受け取っていました。積極的に手を伸ばして求める姿に、ホームレスの人々が欲している物を手渡すことができた実感しました。

もう1カ所、バンデワディパルディ・スラムでも2月4日に、女性、とりわけ高齢女性に、寒い冬を越せるように毛布を配り、より良い健康づくりのための意識啓発をしました。

ここは同市の外れにあります。ごみ集積場がすぐそばにあり、人々はそのから発せられる有害な臭気に悩まされています。集積場でプラスチックなど有価なごみを拾い集めて売り、収入源にしています。ごみ収集車が集積場に入ると、彼らは車に群がります。写真上。集積場に建てた手製のテン

トに、集めた物を貯めています。皆、朝から晩まで劣悪な環境に身を置き、家族総出で働く姿も見られます。

こうした状況を見て私たちは、この地域が少しでも良くなるように支援活動を始めようと思ったのです。今後、このスラムの子どもたちに教育や食事を与えられるセンターをつくろうと計画しています。

(AFSナグプール&グラム・セワ・サン代表 ビシャール・パラシヤペ)



◆路上で暮らす人々に毛布を配る活動は、動画を<https://youtu.be/CBb92EcKwr8>、写真をhttps://youtu.be/_7Dg8QjkI5wでご覧いただけます。下のQRコードからもアクセスできます。



動画



写真

安心して学校に通え仕事ができる

マニラから北へ約100kmの村。村人の大半は小作農。従来の井戸は浅井戸で、生活排水等の汚水が流れ込み、飲用にはできませんでした。そのため子どもや女性が遠くまで水くみに行っていました。新しい井戸ができたため水くみに時間がとられて学校に遅刻したり行けなかった子どもたちも毎日学校に通えるようになりました。またこの地域の田んぼでは、多くの小作人が働いており、飲料水が得られないことが大きな問題になっていました。これからは安心して働くことができます。



ヌエバエシハ州カピアオ町サンフェルナンドスール村 受益者70名(10世帯)
井戸形式…ポンプ式(深さ30m)

【寄贈者】上野孝一様

【寄贈者】藤田房二様

安全な水が飲め、手が洗える

ヌエバエシハ州サンタローザ町リウエイウエイ村 受益者90名(15世帯)
井戸形式…ポンプ式(深さ30m)



村の井戸は浅く、汚水が流れ込み衛生面で問題があり、水量も十分ではなく、水くみ場はいつも混んでいて、水を得ることが容易ではありませんでした。そのために、生活に使う水は近くの川やため池からくんで使ったりもしていました。手洗いなども十分でなく、感染症などの病気の原因になっていました。この度建設された井戸の水は検査の結果、安心して飲めることがわかりました。安全な水が村で得られたことに、村の受益者一同、心より感謝し喜んでいきます。

協力して水を大切に守る

毎日の生活に必要な水は遠くの川や池まで子どもがくみに行っていました。井戸ができ水くみから解放された子どもたちは、毎日学校に通うことができるようになり、教育環境の改善にもつながっています。村人の手洗いなどの衛生に関する意識も大きく変わりました。村人から「心より感謝申し上げます。安心して飲める水が村で得られるようになって、夢のようです。贈っていただいた井戸を大切に、互いに協力し合いながら水を守っていきます」との声が届いています。



ヌエバエシハ州カピアオ町サンフェルナンドスール村 受益者70名(10世帯)
井戸形式…ポンプ式(深さ31m)

【寄贈者】大阪市女性国際交流グループ様

ご寄付には
税の優遇措置が
受けられます

なくそう貧困。命の水を！

井戸の寄贈にご協力ください。あなたの力がアジアの人々の命を助けます。ご寄贈者に完成報告書、写真、パネル写真を届け、現地の井戸に、ご寄贈者のネームプレートを設置します。

■井戸1基の建設に必要な費用■ (2018年4月現在)

インド=60万円 フィリピン=33万円
カンボジア=28万円 スリランカ=22万円
ネパール=17万円 (パイプライン=25～150万円)
バングラデシュ=浅井戸22万円、深井戸55万円

※5年間のメンテナンス費、現地管理費を含む概算です。※現地資材費高騰により費用を1割増に変更させていただきます。ご理解ご協力をお願いいたします。

■お振込み先■ ・郵便振替 00960-6-10835 アジア協会アジア友の会
・三菱UFJ銀行大阪中央支店 普通1968711 公益社団法人アジア協会アジア友の会

詳しくはアジア協会アジア友の会
06-6444-0587

安全で衛生的な水を確保できないアジアの地域に井戸ができて生活基盤が整い、自立へ一歩踏み出せるようになりました。ご寄贈くださったみなさまに感謝申し上げます。

みなさんのおかげで 井戸ができた村

深井戸で衛生的な水

この町はマニラから北へ約100km。フィリピンの他の農村と同じく、人口増加、家屋の密集、一つ家に多世帯で暮らしているなどのため、毎日多くの水が必要です。しかし昔からの浅井戸は、生活排水等の汚水が流れ込み、悪臭がする、衛生的ではない水しか得ることができませんでした。この村で初めての深井戸の建設となり、特に子どもの人数が多いこの村では、子どもたちの衛生環境の改善および手洗いなどの衛生に関する教育へとつながり、大変貴重なものとなり感謝しています。



ヌエバエシハ州カピアオ町バゴンシラン村 受益者90名(15世帯)
井戸形式…ポンプ式(深さ31m)

【寄贈者】上野孝一様

ヌエバエシハ州サン・イシドロ町プロロ村 受益者50名(10世帯)
井戸形式…ポンプ式(深さ31m)



安全で衛生的な生活環境

村には飲用不可の浅井戸しかなく、飲み水を得るために遠くの井戸まで行く必要がありました。長い道のりを子どもや女性たちが行くには多くの危険が伴いますし毎日では行けません。家の水がめに水をためておくと、そこから蚊が発生し、マラリアやデング熱などの原因にもなっていました。手洗いも十分でなく、水が原因の病気になる子どもやお年寄りも多くいました。この度、井戸が贈られたことで、安全で衛生的な環境の中で生活を送ることができ、本当に安堵し喜んでいきます。

【寄贈者】上野孝一様

清潔な水で伝染病が減る

農業が主な産業の貧しい村です。毎日必要な水は、1.4km離れた寺の池にくみにいきます。1日に必要な量の水をくんで帰るには、毎日家族みんなで行く必要があります。池の水は動物も飲みに来るので、その糞も混じり決して清潔な水ではありません。乾季には干上がってしまいます。村人にはその水しかなかったのです。でも新しい井戸が贈られ、清潔な水が手に入るので、これからは伝染病なども減ることが期待されます。本当にありがとうございます。



タケオ州トレアン郡クババ地区カイ・ラン村
受益者…56名(10世帯)
井戸形式…露天式(深さ18m)

【寄贈者】青木加代子 様

【寄贈者】濱口宸也 様

タケオ州トレアン郡ロネアム地区タマダ村
受益者…32名(8世帯)
井戸形式…露天式(深さ20m)



安心して水が飲める

全ての村人が農業だけでは生活できない貧しい暮らしです。トイレが利用できるのは村人の25%に過ぎず、衛生状態も悪く感染症などに村人は悩まされています。新しい井戸ができる前は、家事や飲料水のため、荷車や自転車でため池に行き、子どもや女性はそこで水浴びをした後、家事や飲料用に水をくんで家に持ち帰り、それを煮沸して飲んでいました。水源の関係で新しい井戸は村からは遠くなりましたが、安心して飲める水が十分に得られるようになり、とてもうれしいです。

【寄贈者】やまとまほろばの会 様



タケオ州トレアン郡プレイスルック地区プレイスルック村
受益者…40名(8世帯) 井戸形式…露天式(深さ21m)

安心安全な水が飲める

全ての村人は農業を営んでいます。村人の98%は安全な水が手に入らないため沸騰させた水を飲んでいました。彼らがかかる病気は発熱や下痢ですが、健康にあまり気を遣っていません。必要な水のために家族全員で、1日2～3回徒歩で池に水をくみに行き、馬車の水売りからも水を買っていました。新しい井戸は、村から3.4km南西に位置しています。自転車やバイクで5～10分で井戸まで行くことができるようになり、近くで安全な水が得られるようになりました。

水量豊富で安全な水

井戸ができる前、村人は荷車や自転車で遠くのため池まで水をくみに行くか、水売りから買った水を利用していました。少ない稼ぎから水を買うのは容易ではないですし、ため池の水は清潔ではないため煮沸して飲んでいましたが、発熱や下痢など不潔な水が原因となる病気に悩まされていました。トイレの普及率(自宅にトイレがある)も50%程度です。新しくできた井戸は、村から自転車やバイクで10～15分かかりますが、水量も十分で、安全な水なので、とても助かっています。

【寄贈者】株式会社 国元商会 様



タケオ州トレアン郡プレイスルック地区ニール村
受益者…45名(11世帯)
井戸形式…露天式(深さ32m)

病気の心配ない安全な水

井戸ができる前は、毎日自転車や荷車で1.8km離れた寺にあるため池の水を家事や飲用に利用していました。しかしこの池は動物も使うので、その水は衛生的ではありません。村人の70%、特にお年寄りはその水を沸騰して使っていますが、村では不衛生な水のせいと思われる発熱や下痢の症状を訴える人が多く、安全な水は誰もが望むことでした。新しい井戸は、村からバイクや自転車で10分～15分ほどの場所にあり、安全な水が手に入るようになって喜んでいます。



タケオ州トレアン郡クババ地区カイ・ラン村
受益者…40名(8世帯)
井戸形式…露天式(深さ19m)

【寄贈者】株式会社ユニコーン 様

【寄贈者】小高将根 様

タケオ州トレアン郡プレイスルック地区トラバンベン村
受益者…40名(7世帯)
井戸形式…露天式(深さ21m)



干上がらない清潔な水

井戸ができる前、村人は2.4km離れた寺の池の水をくんで生活用水にしていました。25分ほどかかるその池に、1日に2～3回、荷車か自転車を押して家族中で水くみに行き、水浴びをしてから水を持って帰ります。ところがその池は、動物も利用するため清潔ではないうえに、3～5月は干上がってしまいます。新しくできた井戸は、水源の関係で村から少し遠くなりましたが、干上がる心配のない清潔な水の井戸ができたことは本当に感謝しています。

2019年の活動報告 みなさまのお力で 達成できました

さらに各国から▶ 要請が来ています 2020年の支援事業

2019年度も皆さまのお力によってアジア各国への支援活動に取り組むことができ、水、子ども、貧困対策、環境、サイクル・エイドなどの支援事業を展開しました。また国際ネットワークセミナーをバリ島で、アジア・

ユースサミットを大阪で開催し、共に討議しました。2020年度も各国から現地の状況に応じた支援要請が来ています。アジア各地域の人々としてしっかり連携し、貧しい人々の経済的自立に向けて取り組んでまいります。

農業支援や職業訓練で自立へ

貧困対策事業

2019年度のマイクロクレジット

・能力開発事業は次のようでした。インド・アムラワティ県の女性グループの養鶏事業では追加支援・指導をしました。またサングリ県の農村貧困



インド・サングリ県で女性自立支援のために実施した山羊の銀行

グループに対し、山羊の飼養支援を始めました。ガッチロリ県のナプキン普及支援については、資金不足により啓発指導のみ実施しました。カンボジアでは政策により中断していたマイクロクレジット事業について、支援を再開しました。ネパールではシンドウバルチョーク郡の地震被災地の農業振興のために農業グループを組織化し、継続的な活動推進のため人材育成を行うべく、村の若者から農業大学への奨学生を選出しました。フィリピン・ソルソゴン州のマンガロ

とともに、ココナツ繊維を原料にした有機肥料によって農業を促進し、生計支援につなげました。スリランカでは農村開発ファシリテーターを支援しました。また外務省「平成29年度日本NGO連携無償資金協力事業」の資金供与を受け、インド・バンガロール県に職業訓練学校を開校し、前期4月に28名、後期10月に22名が入学しました。

保健衛生と医療を支援

インド・マハラシュトラ州ムスカ村の病院運営について、医者による週2回の診察、常勤看護師と事務員の雇用、薬の購入を支援し、ムスカ村と周辺12村の延べ3400人が診療を受けることができました（連合愛のカンパ助成）。

ネパールのシンドウバルチョーク郡、カトマンズ郡、ノールバラシイ郡の農村女性の健康のため、5校220名に生理用ナプキンの配布と講習を行い、女子生徒が抱える問題に向き合い、改善策を考える機会となりました。

提携NGOの運営助成

JAFS現地提携団体の運営とマネージメント強化のために、RUDYAとHDSI（インド）、KAFS（カンボジア）、SARVODAYA（スリランカ）に運営費を助成しました。

植林や環境教育で未来づくり

環境事業

インドネシア北スラベシ州タリセ島で、マンガローヤジャックフルーツなど果樹1000本を植林しました。またアチエ州では2004年のスマトラ沖大地震による津波被害の風化を防ぐた

め、防潮林マングローブ1500本を植林し、小・中学校で環境教育をしました（公益信託地球環境基金助成）。ネパールでは、地域の森を守り憩いの場を創るため、3村に1849本の3校に21本を植林しました（一部、緑の募金助成）。フィリピン・アンティーク州パンダ

ン町で植林し、水源の森を保全しました。ヌエバエシハ州では、洪水や台風から土壌を守り生計支援になる竹の植林をしました。

グリーンスカウト運動

セミナーや水源林植林

1986年に発足したグリーンスカウト運動（環境保全市民運動）は、現地提携団体を中心に、地球環境保全に

関する様々な啓発活動をしています。

インド・マハラシュトラ州でグリーンスカウト運動の継続に必要な支援をしました。

水事業

パイプラインと井戸80基を完成

2019年度はアジア7カ国（インド、カンボジア、スリランカ、ネパール、バングラデシュ、フィリピン、ミャンマー）の農村地域58カ所に、飲料水の井戸およびパイプライン計80基を完成し、遠方への水くみを強いられていた人々の生活を改善できました。加えて、水インフラが未整備の新たな集落や、地震に起因して水源が枯渇した地域の水不足に対し、水を確保して貢献することができました。



ネパールでバイオガスプラントの設置を希望し、仕組みを学ぶ人々



スリランカで井戸ができて安全な水を得られるようになった村人たち

子ども事業

アジア里親の会（教育里親制度）により、アジア5カ国（インド、カンボジア、ネパール、バングラデシュ、フィリピン）の生徒470名に対して教育資金を支援するとともに、学校環境

5カ国の里子470人に教育支援



を整備しました。

学校の運営・設備支援

インド・カルナータカ州ビジャヤプーラ県およびマハラシュトラ州ガッチャーロリ県の日印友好学園コスモニケタンおよびパドトラ小学校の運営、および設備や遊具などに対して支援しまし



▲インド・コスモニケタン学園の教室に整備された机と椅子で学ぶ子どもたち

給食をうれしそうに食べるネパールの小学生たち

た。

ネパールでは学校の校舎2棟を建設し、主に2015年に起きた地震後の教育環境を改善しました。

HIV/AIDS支援

インド・タミルナードゥ州ディンディガル県とナマカル県で、HIV/A

ワークキャンプとプロジェクト視察

海外事業に関連し、ワークキャンプは4カ国（インドネシア、カンボジア、ネパール、フィリピン）で11回実施。のべ202名が参加しました。プロジェクト視察は、先の4カ国にタイを加えた5カ国に計16回行いました。

スラムの子どもたち

インド・マハラシュトラ州ナグプールのスラムの子どもたちに、文具・教材の配布と教育指導を行いました。また教育センター（チャイルドアカデミー）の新設工事を開始。2020年8月オープンを目指しています。

ネパールで栄養指導

ネパール・タライ平野の低所得地域の小学生約210名に給食支援をし、子どもたちの栄養状況を改善できました。またシンドゥパルチョーク郡の3校の児童に栄養教育を実施し、栄養改善意識の向上を目指しました。

2020年度 貧困対策 事業計画

国	提携団体	実施地域	内容・意義【必要資金(円)】
インド	HDSI	マハラシュトラ州	村の女性の雇用促進を旨とした養鶏の支援【50万】
	RUDYA	マハラシュトラ州	ムスカ村に設立した診療所において、健康の基礎診断や治療、投薬などができるよう運営を支援する3年計画の2年目。支援完了後は政府からの補助を受け自立運営する予定【60万】
ネパール	AFS-Nepal	バグマティ県	農村の保健衛生向上、産婦人科充実化支援と、性に関する女性の意識向上や布ナプキンの普及による女性の保健状況改善【40万】
		ルンビニ県、バグマティ県	農家の自立促進・農業発展のための農業組合の設立、農業推進の基盤作り【30万】
カンボジア	KAFS	タケオ州	農村の所得向上・貧困緩和のため、小規模零細事業の支援【42万】
フィリピン	AFS-Pandan	アンティーケ州	障がい児童が勉強して将来自立できるよう、パンダン障がい者協会を通して通学や職業訓練などを支援【30万】
	AFS-Sorsogon	ソルソゴン州	農漁業で生計を立てる貧困層の人々のために、漁場となるマングローブの植林や有機農業の推進を行う【50万】

2020年度 環境 事業計画

国	提携団体	実施地域	内容・意義【必要資金(円)】
インド	HDSI	マハラシュトラ州	環境保全推進運動普及のための活動を支援【19万】
ネパール	AFS-Nepal	ルンビニ県、ナラヤニ県、バグマティ県	森林伐採が進む中、国有林の保全と管理を地域森林信用組合に委譲し、植林と森林資源の計画的利用を促進【180万】
		ルンビニ県、バグマティ県	小学生に環境教育。環境保全推進運動の活動や苗支援【50万】
バングラデシュ	BDP	ボリシャル県、ジャマルプール県	燃料を薪に頼り森林破壊が深刻なため、家畜牛の糞を発酵し、生活燃料にするためのバイオガスプラント設置を支援【70万】
バングラデシュ	BDP	ボリシャル県、ジャマルプール県	貧困層の子どもが通う支援学校内に、環境保全と家族の生活のための果樹を植え、子どもの学びと成長につなげる【38万】
フィリピン	AFS-Philippine	全域	焼畑や違法伐採で水源林が破壊され、土砂崩れも招いているため、水源や川の土手に植林して再生【50万】
インドネシア	AFS-Aceh	スマトラ島	津波被災地バンダアチュでマングローブを湾岸部に形成して防潮・防災し、また住民と庭園都市形成を目指す【114万】
	HOSANNA	北スラベシ州	タリセ島の島民減少を防ぐため、在来種の黒檀を植林して環境を保全し、ジャックフルーツやマンゴーなど果樹を植えて生活を支援。地元小学生と協働して環境啓発とする【40万】

2020年度 水 事業計画

国	提携団体	実施地域	内容【必要資金(円)】
インド	AFS-Lonara / RUDYA / HDSI	マハラシュトラ州	井戸建設【1基60万×5基】
カンボジア	KAFS	タケオ州、コンポントム州	井戸建設【1基28万×15基】
スリランカ	SARVODAYA	全域	井戸建設【1基22万×10基】
ネパール	AFS-Nepal	全域	井戸・パイプライン建設【1基17万～×14基】
バングラデシュ	BDP	ボリシャル県、ジャマルプール県	井戸建設【1基22万×6基】
フィリピン	KALIPI / AFS-Sorsogon	全域 / ソルソゴン州マトノグ町	井戸・パイプライン建設【1基33万×12基】



日本の放置自転車でアジアの暮らし改善

「放置自転車を再生し、世界の子どもたちに贈ろう!」を合言葉に、大阪府内の放置自転車を修理・再生し、海外の子どもたちに贈っています(競輪の補助事業)。海外で遠くの学校に通う子どもに自転車を贈ることで、教育環境の向上などに寄与し、国際交流の絆が深まります。放置自転車のリユースにより大阪府内の環境負荷が軽減され、資源循環型社会に貢献できます。

2019年度は堺市、八尾市、泉佐野市、大阪市、泉大津市、高石市、東大阪市の協力により自転車720台の提供を受け、タイに350台、カンボジアに370台の自転車を贈りました。05年の事業開始以来の自転車寄贈数はアジア・アフリカ10カ国に計3万2150台となりました。

贈られた自転車は、子どもたちの通学、コミュニケーションや医療従事者の巡回、貧しい農民、環境保全の活動に従事する人々などに活用されています。タイでは地域のNGO、行政、村人、先生、保護者、地元有力者らによる支援体制ができており、地元の人による修理・点検や安全指導が行われています。カンボジアでも地域の協力体制ができており、また移動時間の短縮が、女性の社会進出や生活向上へつながっています。

サイクル・エイド事業

2015年に起きたネパール中部地震被災地の復興と、その後の持続可能な地域づくりを目指し、シンドウパルチョーク郡の根本的な水の不足を解決するために、外務省の「平成30年度日本NGO連携無償資金協力」から資金供与を受け、揚水システム設置と農業基盤づくりを行う大規模な復興支援事業を開始し、揚水システムの主要部を完成することができました。

引き続き「令和元年度日本NGO連携無償資金協力」から資金供与を受けて2期工事を開始し、対象地の東側集落に対して水と農業用水の配水を開始

しました。

東日本大震災について、記憶の風化を防ぐとともに、復興に懸命な現地の人々を支えることを目的に、パナソニックグループ労働組合連合会と共に被災地各所の視察を行いました。また宮城県南三陸町の「海の見える命の森」にて植樹し、心の癒しの場づくりに協力しました。

フィリピンでは、パナイ島などを12月に襲ったフィリピン台風ファンフォンにより被災した子どもたちが勉強を続けられる教育環境を取り戻すために、物資支援を始めました。



ネパールで谷あいの川から揚水した水を配水するための大規模パイプライン建設。送水用タンクの設置工事中

罹災者支援事業

震災・台風被災から復興中

2020年度 子ども 事業計画

国	提携団体	実施地域	内容・意義【必要資金(円)】
インド	SSH	タミルナードゥ州	HIV/AIDSの影響下にいる家族の生活向上支援【21万】
	AFS-Nagpur	マハラシュトラ州	スラム街の教育センター(チャイルドアカデミー)の子どもの就学支援、給食・教材支援【30万】
	BSVIA	カルナータカ州	日印友好学園コスモニケタンの机・イスなど学校環境整備【20万】
	RUDYA	マハラシュトラ州	日印友好学園パダトラ小学校に制服、教材、遊具など学習環境支援【20万】
ネパール	AFS-Nepal	バグマティ県	地震後の学校は応急処置的な仮設教室で再開していたが、その後設定された安全基準に則った本格的な校舎再建を支援【250万】
		ルンビニ県、バグマティ県	ピトゥリ基金による学校給食プログラムを広く普及。栄養状態が悪い地域の子どもたちの健全育成のため、給食提供と栄養指導【80万】
バングラデシュ	BDP	ボリシャル県、ネトロナ県	小学校43校の衛生設備が老朽化し不衛生なため、感染症を予防すべく衛生的なトイレに改築【56万】
フィリピン	ASI	マニラ市	路上生活から強制退去となり、新たな地で暮らし始めた家族に対し、子どもと保護者の教育、栄養改善、職業訓練、収入確保を支援【28万】

2020年度 子ども 事業 アジア里親の会 計画

国	提携団体	実施地域	内容・意義【新規要支援里子数】
インド	RUDYA	マハラシュトラ州	少数民族の子が通う日印友好学園パダトラ小学校の教職員給与など運営支援。書籍・設備拡充を支援【45人】
	BSVIA	カルナータカ州	貧農の子どもに教育機会を与える日印友好学園コスモニケタンの運営支援【10人】
	SSH	タミルナードゥ州	HIV/AIDS感染家庭や低収入家庭の子どもが就学できるよう、制服・教科書代、学校運営費などに充てる【7人】
	AFS-Nagpur	マハラシュトラ州	スラム街の子どもの就学継続のため給食や教材を支援【2人】
カンボジア	KAFS	タケオ州、コンボンチュナン州	経済的に不安定な家庭の子どもの教科書・文房具購入など就学支援や、学校の運営を支援【10人】
ネパール	AFS-Nepal	第三州、第四州	1人でも多くの子どもが学校に通えるよう、学校運営費などを支援【10人】
バングラデシュ	BDP	ガジプール県、ジャマルプール県	1人でも多くの子どもが学校に通えるよう、学校運営費などを支援【20人】
フィリピン	ASI	カビテ州、マニラ市	路上から新たな地に移住した子どもの教育支援と、家族への教育・栄養改善・職業訓練・収入確保を支援【2人】

2020年度 サイクル・エイド 事業計画

国	提携団体	内容・意義【必要資金(円)】
タイ	TAFS	大阪府内の放置自転車を再生し、最も必要とされる地域へ贈る【250万】
カンボジア	KAFS	

2020年度 罹災者支援 事業計画

国	プロジェクト	実施地域	内容・意義【必要資金(円)】
ネパール	ネパール中部地震災害復興支援	シンドウパルチョーク郡	2015年の地震被災地の復興を目指し、外務省「日本NGO連携無償資金協力」の資金供与を受け「安定的な農業地域を目指した水インフラ設置と農業生産向上の基盤作り」事業を実施【5630万】
フィリピン	台風ファンフォン被災者支援	パンダン町、ソルソゴン州	2019年12月に台風ファンフォンが襲い約240万人が被災。子どもの教育環境を整えるため、教材・文具配布や校舎修理など【100万】
日本	東日本大震災復興支援	宮城県南三陸町	災害記憶の風化を防ぐと共に復興支援の継続。予定していた新居住地の環境づくりを目指す植林活動と現地との交流を深めるスタディツアーは、新型コロナウイルス感染拡大により中止【50万】

インドネシアで国際セミナー開催

国際交流 事業

2019年度は、第29回アジア国際ネットワークセミナーをインドネシアのバリ島で開催し、アジア11カ国から96名が参加しました。テーマは「貧困から人々を救済し、地域社会のリーダーを育成する教育の役割」。教育のあり方が私たちの暮らしや人生と密接な関わりを持っていることを確認し、活動目標として①基礎教育の重視②貧困層への知識と技術の伝達③思いやりと価値観を育む教育の継続などに取り組み、との大会宣言を採択しました。

第6回アジア・ユースサミットを大阪奈良で開催し、日本を含むアジア



11カ国の高校生が集まりました。発表やグループ討論、フィールド研修をし、カルチャーパフォーマンスや懇親会などで交流を深めました。多様な文化と考えを尊重しながら、自らが調べ設定した地域課題と解決方法を共有し、地球規模の問題としてとらえ解決に向けて行動すること、参加者一同、宣言文の形で確認しました。若者が意見を自分の言葉で発する力を養い、自信を深める機会を提供できました（外務省NGO事業補助金、三菱UFJ国際財団国際交流助成）。

2カ国でスタディツアー

フィリピンとカンボジアでスタディツアーをし、高校生を含む31名が参加して学びの場となりました。

職員研修と奨学金支援

本会のネットワークを将来担うアジア各国提携団体の職員の研修・育成のため、フィリピンのアジア社会科学院（ASI）の地域開発コースに、インドから1名を派遣し、奨学金支援を行いました。

海外ボランティア研修制度については、募集しませんでした。

2020年度 国際交流 事業計画			
国	プロジェクト	実施場所	内容・意義【必要資金(円)】
スリランカ	アジア国際ネットワークセミナー	モラトゥワ市	1990年以来毎年、AFSネットワーク関係者を中心に、「貧困なき一つなるアジアを目指して」をモットーに貧困削減のため話し合う。今年も10月に予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大により中止【-】
フィリピン	ASI 地域開発コース支援	マニラ市内のアジア社会科学院(ASI)	地域開発を専門に農村の社会課題を解決する次世代の人材を育成し、貧困なき国作りを行うために、インド1名・フィリピン1名を、社会科学専門大学院大学ASIの2カ月の地域開発コースへ派遣の予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大により中止【-】

●…JAFS国際協力基金…●

「地球幸せ募金」貯金箱式募金	栄養失調に苦しむ子どもたちの栄養改善を目的とした給食基金に充てる。または、今年度プロジェクトのいずれかを支援する
「アジア井戸募金」募金箱設置	各家庭や店などに募金箱を設置し、井戸建設支援に充てる
「アジアフレンドシップ夢基金」募金	アジア18カ国の草の根の人々と共同で、「アジアフレンドシップ夢基金」を募り、アジアと世界のより困窮する人々への支援金とする

国内での普及啓発 事業

国際協力PRとチャリティ活動

国内では2019年度も、広く一般の方が本会の活動に参加できるよう、様々なチャリティ企画をしました。

恒例のJAFSチャリティバザールのほか、4年目となったアジアン・チャリティフェスティバルは、初めて公益財団法人大阪国際交流センターと共催。在関西のアジア系市民とも交流する多文化共生イベントとして366名の参加がありました。地区活動やプロジェクト支援グループでも、支援や広報のためぞうすいの会、ウオーカソン、コンサートなどのチャリティイベントをしました。

国際理解教育講座として、小学校、高校、大学や企業等のべ10カ所に対し国際理解に関して講義しました。

毎月のぞうすいの会や地区活動で、アジアでのプロジェクトを報告しました。

インターシップ生3名を受け入れ、国際協力活動と市民運動に関して実習しました。

法人賛助会セミナーおよび社員クラブを、異業種交流会との共催も含め計2回開催してアジア理解を深め、参加者どうし交流しました。



アジアン・チャリティフェスにて、バングラデシュとウイグルの参加者

新たに開学したアジア市民大学では、アジアの国の文化理解に向け、専門家による講義を9回開きました。

10月の本会40周年に当たり、支援くださった方々への感謝を込め、記念式典、記念誌発行、作文コンテスト、日本語スピーチコンテスト、募金活動を実施したほか、今後に向けたビジョン策定により基盤づくりをしました。活動情報誌「アジアネット」を年4

回発行し、事業報告や海外情報について広報しました。ホームページやフェイスブックなどを通じてイベント情報やニュースを随時発信しました。

関西NGO協議会や国際協力NGOセンターを始め各種関係団体の役員を務めるなど、市民活動の社会意義を広げる活動に連携協力しています。関西最大の国際協力のお祭り「ワン・ワールド・フェスティバル」や全国最大の国際協力イベント「グローバルフェスタ」の運営にも貢献しています。

関連市民活動として、関西ナショナル・トラスト協会、日本を良くする会、グリーンベイOSAKAも活発に活動しました。

「土水」や環境保全活動

36回を迎えた「土と水と緑の学校」は、166名が参加し和歌山県新宮市の自然の中で5泊6日の環境プログラムを実施しました。

美山「土と水と緑の自然学校」は京都府南丹市美山町で3月開催予定でしたが新型コロナウイルスにより中止しました。

本会が提唱した国際グリーンスカウト活動として、大阪部会とは和歌山県新宮市や京都府南丹市美山町で環境プログラムを開催し、吹田部会は毎月1回の例会と、川清掃活動やキャンプを実施しました。寝屋川・枚方部会は地域活動グループと共に緑化農業活動をしました。

グリーンスカウト吹田の無人島キャンプで水を運ぶ子どもたち



各地の会員活動

地区活動は、関西地区を中心に、全国11のエリアごとに地区世話人を中心として、本会の活動と理念の普及やアジアとの「理解と協力と連帯」の輪を広げることを目的に、様々な活動が行われました。

各地区会でJAFSの海外支援活動（インド・ネパール・カンボジア他）の報告会が開催されたほか、地元のお祭りやイベント（春咲緑日／西宮4月、中山寺子供フェスティバル／宝塚5月、だんじり祭り／守口5月、七夕まつり／豊中7月、枚方まつり／枚方8月、グローバルフェスタJAPAN2019

2020 年度 社員総会報告

公益社団法人アジア協会アジア友の会第9回社員総会を下記の通り開催しました。本総会は、新型コロナウイルス感染拡大対応のため、書面による議決権行使を要請し、同時にオンライン出席を推進しました。会場の座席は対面を避けて間隔を開けた配置とし、来場者にはマスク着用と手指消毒に協力いただきました。

定款に基づき萩尾会長が議長となり議事を進行了ました。現社員数208名の内、出席社員数140名（内オンライン出席者6名、議決権行使書提出者111名を含む）であり、定足数105名を充足し、総会の成立を宣しました。

日時: 2020年6月13日(土) 14 ～ 15時

会場: 肥後橋官報ビル 8階会議室

議案 I: 決議事項

第1号議案「役員の選任」の件

第2号議案「2019年度計算書類(貸借対照表及び正味財産増減計算書)、同附属明細書及び財産目録の承認」の件
第3号議案「ビジョン委員会からの提案の承認」の件

上記の決議事項第1号議案に関しては、選挙管理委員

2名選任のもと、まず留任理事の候補者25名について略歴を紹介し、各候補者につき承認に関する採決を行いました。続いて新任理事候補者7名の略歴と推薦理由を説明後、承認について採決し、最後に監事1名（2名は任期中）を選任しました（**役員一覧は30**）。

第2号議案については詳細な報告がありましたが、特に質問や意見は無く、すべて承認されました。

第3号議案に関し、ビジョン内容詳細と新スローガンについて、SDGs（持続可能な開発目標）との関連を含めて説明がありました。出席者より、今後ビジョン公表の際にはSDGsの説明を記載するよう要望があり、その意見を付して承認されました。

例年の総会と異なり、新型コロナウイルス感染対策としての時間短縮のため、報告事項に係る議案は略し、2019年度事業報告書・2020年度事業計画書・2020年度収支予算書の書面配布を以て代えました。同様に、例年総会後に開催の海外プロジェクト報告会や懇親会についても、開催はとり止めました。

海外プロジェクト支援を目的とするファミリィグループでは、15グループが様々なイベントやチャリティ活動を実施し、海外支援事業の応援を精力的に展開しました。特に「日印友好学園コスモニケタン支援会」は、JAFS 40周年記念行事の一環として、同学園の先生など4名を初めて日本に招待し、ぞうすいの会などで報告会を開催し、多くの皆さんに現地の状況を理解ただけました。

また「ネパールへのかけ橋」は2000年の発足以来、一貫してネパールの子ども支援をテーマに様々な活動を展開していますが、20周年を迎え12／1月には記念のネパールツアーも実施しました。



収支決算書（2019年4月1日～2020年3月31日）

[1] 収入の部 (単位円) [2] 支出の部 (単位円)

科 目	予算額	決算額	差 異	科 目	予算額	決算額	差 異
1. 会費収入	28,200,000	18,661,200	9,538,800	1. 事業費	85,500,000	81,742,507	3,757,493
（1）社員会費収入	5,760,000	4,710,000	1,050,000	（1）水(井戸・飲料水供給)	22,000,000	18,754,736	3,245,264
（2）維持会費収入	10,800,000	6,989,400	3,810,600	（2）子ども(里親・教育・学校建設)	17,000,000	12,910,268	4,089,732
（3）賛助会費収入	6,000,000	3,838,800	2,161,200	（3）貧困(生活自立・職業訓練)	5,500,000	4,071,218	1,428,782
（4）学生会費収入	0	0	0	（4）環境(GS活動・植林・バイオガス)	5,500,000	6,585,260	△ 1,085,260
（5）団体会費収入	600,000	220,000	380,000	（5）サイクル・エイド事業	2,500,000	4,247,450	△ 1,747,450
（6）法人賛助会費収入	5,000,000	2,900,000	2,100,000	（6）ネットワーク推進事業	9,000,000	8,790,585	209,415
（7）ジュニア会費収入	40,000	3,000	37,000	（7）人材交流・育成事業	6,000,000	8,620,096	△ 2,620,096
2. 募金・寄付金収入	62,700,000	60,457,742	2,242,258	（8）地域広報活動事業	13,000,000	13,053,824	△ 53,824
3. 負担金収入	21,000,000	23,298,833	△ 2,298,833	（9）環境保全・啓発教育事業(土水)	5,000,000	4,709,070	290,930
4. 受取利息	5,000	2,179	2,821	2. 災害特別助成金支出			
5. 雑収入	95,000	5,000	90,000	（1）災害等罹災者支援事業	700,000	725,003	△ 25,003
6. 災害特別助成金収入	53,000,000	51,407,937	1,592,063	（2）フィリピン災害復興支援事業	0	0	0
当期収入合計A	165,000,000	153,832,891	11,167,109	（3）ネパール地震復興支援事業	53,000,000	51,762,653	1,237,347
前期繰越収支差額	2,236,825	2,236,825	0	3. 管理費	25,500,000	19,632,607	5,867,393
収入合計C	167,236,825	156,069,716	11,167,109	4. 退職給付引当資産取得支出	300,000	318,750	△ 18,750
				5. ソフトウェア購入支出	0	0	0
				6. 基本財産振替支出	0	0	0
				7. 予備調整費	0	0	0
				当期支出合計B	165,000,000	154,181,520	10,818,480
				当期収支差額A－B	0	△ 348,629	348,629
				次期繰越収支差額C－B	2,236,825	1,888,196	348,629

（6は外務省の日本NGO連携無償資金協力支援事業の供与）

役員一覧 50音順（2020年6月～）

役職	氏名	経 歴
理事	熱田親熹	NPO 法人ネパールヨードを支える会理事長
理事	池田直樹	あすなろ法律事務所 弁護士
理事	井上勇一	日本基督教団洛南教会 牧師
理事	上野孝一	寝屋川十字の園 施設長
理事	沖田文明	(特活)関西ナショナル・トラスト協会 副代表理事
理事	小原純子	(一財)大阪市男女共同参画のまち創生協会 前理事長、現名誉顧問
理事*	金井英夫	元 IBM-Japan コンサルティング事業部ソリューションコンサルタント次長
理事	栞村壽子	天王寺英数学院 理事長
理事	齋藤公代	元 大阪北生協機関紙むつみ・タウン誌ライブタウン編集長
理事	坂口久代	関西イタリア語文化センター 代表
理事	櫻井紘哉	元 (株)三和銀行管財部長、(学)芦屋学園 理事
理事*	佐藤正隆	リタワークス (株) 代表取締役
理事*	實 清隆	奈良大学名誉教授
理事	篠原勝弘	(公財) CIESF 相談役、元 駐カンボジア特命全権大使
理事*	メ木泰輔	エーゼル (株) 代表取締役社長
理事*	永島智子	イオングループ労働組合連合会会長、イオンリテールワークスユニオン中央執行委員長
理事	田中久雄	元 (株) かんぼう社長
理事	寺西浩章	(宗) 家原寺 住職

役職	氏名	経 歴
理事	富松英二	元 三菱電機 (株) 通信機製作所 開発管理担当部長
理事	西田貞之	(有) 西田興産 代表取締役、元大阪府職員
理事	新田香織	近畿大学非常勤講師
理事	福澤邦治	パナソニックグループ労働組合連合会 副中央執行委員長
理事	藤原正昭	行岡保健衛生学園 顧問
理事	古谷裕子	北港情報サービス (株) 代表取締役
理事	法花敏郎	元 朝日ビルディング社長
理事*	松原 正	(株) かんぼう 代表取締役
理事*	宮野谷 篤	(株) NTT データ経営研究所 取締役会長、元日本銀行理事大阪支店長
理事	村上公彦	日本基督教団寝屋川教会 牧師（本会創設者）
理事	森本榮三	森本グリーンサービス 相談役
理事	湯川 剛	(株) OSG コーポレーション 代表取締役 会長・CEO
理事	吉田俊朗	元 ユニチカ (株) 監査役
理事	米田明正	(株) グローアップ 代表取締役
監事	出口貴之	(株) 宝屋 代表取締役
監事	毛利吉男	(株) カステロ 代表取締役
監事	山下泰之	東邦金属 (株) 常勤監査役

*は新任

新入会員ご紹介

ご入会感謝申し上げます。（敬称略・50音順）

2020年3月1日～2020年5月31日

社員会員

佐藤正隆／永島智子／宮川眞一

●維持会員
井上美保／金村実香／川崎なおみ／小
山裕子／豊田財光枝／前田乙美／森山
尚子／渡辺昇

会費納入者、寄付・物品協力者

温かいご支援ありがとうございます。（敬称略・50音順）
2020年3月1日～2020年5月31日
なお夏季・冬季募金へご協力くださった方につきましては、
1年後の夏季・冬季に別紙で報告させていただきます。

社員会費

秋山賀子／浅野弘／足達新／安達英行
／熱田親憲／熱田典子／幾谷眞規子／
池田邦子／池田悦子／池本修／石田雅
昭／石原基義／上野孝一／宇野稔／大
谷タカコ／大野嘉宏／大原映子／大前
幸正／岡本厚／岡本佳子／小澤勇／越
智賢三／柿島裕／笠谷正博／加藤喜代
子／金井英夫／栢下壽／川合千代子／
川上知子／川崎壽／川端勝／北田嘉信
／北野光三／北山典彦／金昌則／草加
節男／桑村壽子／古賀旭／古賀範久／
小林久仁子／坂口久代／櫻井紘哉／佐
々木実／佐藤眞子／佐藤道代／佐藤満
昭／佐藤理香／更家充／篠原勝弘／島
井宏子／下山浩二／白井春夫／杉林則
子／平興隆／高垣靖／田中壽美子／田
中政直／谷岡康男／谷口京子／千代博
子／辻川楠美／土屋菊男／藤岡孝子／
藤岡剛／富田和政／富松英二／豊崎登
／中井淳夫／中内一場／中島和子／中
西洋／中村敏子／中村日游／二階堂美
智子／西川京子／西田貞之／野木義弘
／野口明英／橋口高明／橋本隆／春名

康範／韓礼元／東幹男／平岡宏一／福
川肅／藤本加代子／藤原正昭／細谷詩
子／法花敏郎／本間一将／松原直弘／
松本静枝／宮野谷篤／宮本照佳／三渡
眞由美／虫明慧悟／村上和範／村上公
彦／村上清子／毛利吉男／森本榮三／
森脇寛／安田信人／八束浩一／柳井一
朗／山崎道治／山崎桃／山下泰之／山
田和広／山田英男／山田穂積／横井怜
子／横山浩平／吉岡健一／米田徳子／
若元裕美／若元良嗣／渡邊喜久次／渡
部高明

維持会費

浅尾みちる／浅野照子／安達淳子／熱
田昭子／熱田貴子／天野貞男／天野さ
やか／天野日出男／雨森清忠／荒川惣
平／有本幹子／栗井健徳／石原京子／
泉原眞由美／市来賜代／市来千代子／
市坪利恵子／伊津野修／因幡明洋／井
上松月／井上順子／今井利子／今井貴
浩／今井康郎／今堀京子／岩城良子／
上田高久／上野未惟／植村龍子／梅田
祥仁／浦野健二／海野良三／江守猛／

ジュニア会費
徳永健／徳永優

団体会費

大成印刷株式会社／日本を良くする会

法人賛助会費

(株)ウエストフィールド／(学)エル学園
／NTT労働組合関西総支部／岡三証
券(株)／堺南運輸商社(株)／(株)ジャバンボ
トラーズ／(株)国元商会／(株)クレコス・
(株)ツールオカフジ／NPO法人十勝・
桜の山プロジェクト／日広機設(株)／パ
シフィックリードジャパン(株)／(株)服部
建築事務所／(株)フラットエージェンシ
ー／ユニチカユニオン

里親会費

アジア井戸ばたサロン／石原歩／伊藤
誠／岩田一則／上田慎子／上野未惟／
大畑直之／大原偉樹／小笠原和久／奥
野憲一／鬼塚友子／オムロン労働組合
／川端啓之／川端美智子／北原祐司／
絹田悦子／木下敏子／木村依江／小西
孝彦／小林久仁子／斉藤渡／佐伯和雄
／佐藤潤子／佐藤正明／塩月裕朗／下
山いつみ／荘司晃一／園田道子／平眞
知子／巽正憲／田中和子／田中貴美子
／田中達也／谷総安雄／田村章子／筒
井利弘／坪内廣次／出来成人／寺山正
道／徳永昌彦／中島和子／中島綾／中
谷良子／中村操／二階堂美智子／西宮
教会婦人会／野川節子／畠山房子／塙
平葉子／日生下卓／平川哲也／藤原勝
徳／堀田飛鳥／前田泰子／松原直弘／
三里健一／南大阪教会／森利明／山岡
輝清／山口真理子／山根英浩／山脇哲
／横井厚人／渡部司

一般寄付

青木洋介／浅井聡子／浅沼咲子／J A
F S事務局／熱田親憲／有本幹子／伊
奈徹／上野孝一／岡藤茂夫／隠岐教会
／金井英夫／チャリティーショップ

生石清子／大島一晃／太田真知子／大
谷伊津枝／大槻昌寛／大成孝子／大平
さゆり／大脇君義／岡野きぬ子／岡本
朋子／小川富／小川誠／沖早知子／置
田善三／興津謙太郎／荻野晋也／奥眞
里子／奥平譲治／尾谷孝子／落合朋子
／小野舞／加地美智子／梶谷阿久里／
片山和子／片山直也／勝見文雄／金井
英夫／金子澄子／金丸幸子／釜下昭子
／上岡忠人／加茂清次／川上知輝／川
上礼子／北口正敏／北田雅人／北村晏
一／吉相幸枝／木野由弘／木原みき／
木村依江／清岡恵美子／楠山容子／久
保田久人／熊本千恵子／黒木隼彦／小
池美和子／小出裕司／糺矢美智／甲田
一幸／小倉正和／小島俊之／古住満寿
子／小谷のり子／小西尚子／小林英子
／小林眞澄／小松一子／小森茂之／小
山一雄／近藤恵／齊藤透／齊藤仁／斎
藤美美子／斉藤渡／嵯峨山節子／佐藤
潤子／佐藤寛範／佐藤泰範／佐藤善範
／澤田安子／塩野弘美／實まり子／芝
崎末廣／島田恒／嶋元純夫／下野博
／正法地圭／正法地浩／末永雅典／須賀
浩／菅原直樹／杉江久男／杉原貴／鈴
木誠也／須田勇／住友藍／瀬川眞平
／関口淳／曾和明／平善行／高畑政登
／田口哲朗／竹田陽子／竹中一章／竹中
由紀子／武生伸子／立石小夜子／田中
和枝／田中和子／谷口昌嘉／谷丸八郎
／種村政宏／玉置和子／辻賢二／辻正
浩／津田洋子／坪内廣次／土井利夫／
土居正明／堂浦郷子／遠田智代／徳永
正和／富松孝司／豊田財光枝／豊田祐
輔／寅田和代／鳥居建十／内藤恵子／
長江佐和／中岡未子／中嶋典子／中島
三栄子／中島就子／中島裕子／中島綾
／中須賀敏子／中筋光子／中谷華菜
／中西彰夫／中西伸子／中西正喜／長野
清文／中橋政美／中南有加里／中村眞
司／中村暢秀／中森隆枝／南里孝美
／西優子／西垣光代／西川龍夫／西田信
行／西田恭子／西野恵子／西林昌樹
／西山あかり／野池徹／野口博司／橋本

喜代子／橋本喜代美／橋本元氣／橋本
恵／長谷川雅子／秦道代／林佐妃子
／林千夏／原田和幸／春田希代子／日生
下卓／久光定雄／日野恵美子／日野眞
澄／平見美智子／廣地洋太／福島朋子
／福本義克／房本晃／藤井順子／藤井
りか／藤川孝夫／藤木一世／藤木茂利
／藤田百合子／藤原龍雄／船戸尚子
／古川光照／古田万紀子／古田由紀／堀
正巳／堀田飛鳥／本多操／前澤良子
／正道幹子／真下浩一／榊田実／松村祐
介／松本節子／松本典子／松山千恵
／山岡輝清／山口幸子／山口文枝／山
崎晶子／山下登世子／山下善照／山田
孝彦／山部檀／山本勝彦／山本眞司
／山本哲司／山本幸子／横井明子／吉岡
照仁／吉田伊吹／饒平名知幸／鎧坂総
子／靈松寺／和田早苗／和田多喜子
／金村実香

●賛助会費
浅井聡子／天津貴志／荒川奈禱子／有
井慶子／有山英里／有山奈那／池嶋伸
晃／池住美樹／池田喜代子／池田倫子
／石田尚美／泉谷博幸／一鷹要市／市
村睦子／一色由子／稲垣章子／井上修
二／晶子／井上康／岩切康宏／岩崎裕
保／岩下将人／岩田一則／上田秀子
／上畑育美／植村友恵／梅川秀和／漆原
嘉孝／江守和子／大谷まり子／大野早
百合／大橋昇子／大原偉樹／お母さん
の地球学校／沖本加代子／奥野憲一
／奥山宏靖／鬼塚友子／小山一行／柿島
頼紀／籠谷啓史／鍛冶良祐／加芝ナミ
子／梶原英一／粕谷早苗／粕谷香代子
／勝成忠／川島敏子／川端美智子／川

阿部有紀／岡本佳子

チャイルドアカデミー指定寄付

チャリティーショップKAMACI／J A
F S京都地区会／八木健次

ネパール・バイオガス寄付

J A F S 松原

ネパール・ピトゥリ支援

大谷英一／大谷臣子／小川幸子／倉光
和之／小松朱美／前田美津代／前田豊
／宮本博幸／八木健次

ネパール子ども夢・基金

鎌田勝江

ネパール指定寄付

崎野哲史

貧困対策指定寄付

オムロン労働組合

フィリピンストリートチルドレン支援

J A F S 京都地区会

東日本大震災復興支援寄付

小野寺知子

フィリピン台風被災者支援

天津貴志／岡本朋子／岡本佳子／澤田
武憲／福西礼子／堀口賢司

地球幸せ募金

小代利子

補助金

○アジアユースサミット支援
外務省NGO事業補助金

助成金

○インドネシアアチエマングロブ植林支援
公益信託地球環境日本基金

良幸子／上林愛子／上林喜久郎／北岡
幸子／北川久躬子／北村英夫／北村光
弘／狐塚眞美子／絹田悦子／木原民世
／木村和夫／栗山聡子／桑原由紀子
／小泉和／小林理恵／齋藤史子／斉藤理
美／佐伯和雄／坂上知子／佐々寿子
／佐々靖男／清水直子／清水利香／下山
いつみ／シュレスタナニマヤ／庄司野
宇三郎／新谷百代／杉本みゆき／鈴木
禎子／平眞知子／高橋理佐子／高山純
一／田口吉三／嵩聰久／竹井智子／竹
中晋／竹中敏恵／武部恵子／立田康雄
／谷奥恵／谷総安雄／谷口和子／谷口
惺／田伏ハルエ／クンパールカイラー
シュ／辻貴文／辻知久／辻本嘉助／津
田宏久／土屋りつ子／都筑信美／壺井
利一／出来成人／東代清隆／徳永昌彦
／外村茂一／外山和美／内藤健一／内
藤肇／内藤雅貴／中島慎介／永谷恵子
／中谷太一／中西加那子／中西邦夫
／中野鉄馬／長浜眞美／中村操／中村弓
絵／成山邦子／西浦暢子／西林文／西
原茂／野上麻理／野川節子／野口須美
子／野島哲也／野村水香／畠山常夫
／花房逸子／花光智香子／塙平葉子
／浜田春樹／濱田光江／早崎鉄也／東久保
勝彦／東谷香保子／藤田みく／飛田雄
一／平岡三保子／平川哲也／平野千晴
／平原榮子／福岡名津子／藤本千恵
／藤原昭子／藤原勝徳／藤原眞由子
／麓忠司／船松志津子／堀田紀美子
／堀富比呂美／眞砂恵美／松浦有理子
／松尾慶治／松田高志／松長朋子
／三上敦史／水野恵理子／御手洗主
／箕浦明子／宮崎誠也／村口ミヨ子
／森奈良好／森岡幸子／森田浩
／八木原由希子／山口タカ子
／山下良一／山田伸枝／山根英浩
／山野和子／山本隆／山本セツ子
／山本晴子／湯浅公太／湯浅洋子
／横井厚人／横井文／横山正子
／吉用トモ子／義本奈々／愿山紀代
／若林美幸／和田みな子
／綿田元松／渡辺彩智子

建設資材の開発・製造・販売でインフラに貢献



当社は昭和34（1959）年に設立、建設に使用する足場仮設資材、型枠用金物、木造住宅用耐震金物・建材を開発・製造・販売しております。昨年おかげさまで60周年を迎えることができました。

「衣食住」は人が生活を営む上において、必要不可欠とされるものであります。当社はその中で、特に「住」の分

野に特化して事業展開を図っております。古くから治山治水は国家的な大きなプロジェクトです。人々が利用する住宅・ビル・学校・病院および社会インフラを整備することは、将来の国づくりを支える重要な課題であり、JAFS様の活動にも相通じる部分が多分にあると考えています。当社の事業精神の中に「為

さざる有るなり
而る後もつて為
す有るべし」と
いう言葉があり
ます。これから
も道義に基づく
経営を実践し、
社会貢献してい
く所存です。

大阪市鶴見区今津北3-4-27

☎ 06-6969-5102

代表取締役：前泉正信

担当：管理本部 南部弘晃

新・The 社会貢献

企業や労働組合、各種団体は、それぞれの理念に基づいて活動していますが、いろいろな形で社会の役に立ちたいという気持ちは私たちと同じです。アジア協会アジア友の会の理念にご賛同、ご協力くださっている法人会員を紹介します。

北海道に桜の山を、アジアに安全な水を



当法人は、北海道十勝の浦幌町富川の23軒の地をエゾヤマザクラの里にする活動を実施しているNPOです。当会は令和元年1月に誕生したばかりですが、既に令和元年に150本、そして今年（令和2年）に300〜400本のエゾヤマザクラの大苗の植樹を予定しております。

10年後には十勝の山が桜いっばいになることを夢に、少しずつ活動を広げていきたと思いますので、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

当法人理事がアジアの困窮地に安全な水を贈りたいと、インドやネパールへ井戸を贈る活動に協力させていただきましたご縁で、法人会員として関わりを持たせていただくこととなりました。JAFS様

みんなで
桜の山を
つくりましょう。

NPO法人 十勝・桜の山プロジェクト
(特定非営利活動法人)

新型コロナウイルス感染症。日本の緊急事態宣言は全国で解除されましたが、この先も、まだまだ感染するリスクも感染させてしまうリスクも続きます。地球上からこのウイルスが消滅することはありません。ステイホームからステイアラート（警戒）とは、心に留めやすい分かりやすいフレーズだと感じています。思えば私たちは従来から様々なリスクと隣り合わせに居て、それと付き合い警戒しながら生きてきているわけです。交通事故、火事、様々な病気…。これからはその一つに新型コロナも含めていくということ。これまで罹患しなかったことにはたまたまの部分もあり、感染された方の命や苦しみ、治療くださった方の奮闘、また感染拡大防止行動を頑張った世界中の老若男女全ての個人や事業者の方など、皆が払ってきた犠牲を無駄にすることのないよう、そこから学んだことも活かし、これからは新型コロナのリスクを常に意識しながら過ごしたいと思います。

この出来事を機に、PCR*が誰もが知る言葉になったことに驚きを感じています。私が生物化学に関する実験をしていた数十年前、PCRは最先端の一つであこがれでした（実際に使ったことはありません）。発明者は1993年にノーベル化学賞を受賞しています。研究分野では定番の実験手法になり、遺伝子組換え食品の検査やDNA鑑定など

でも使われていますが、抗原や抗体という言葉も含めこれほど一般的に知られるようになるとは。ですがやはり高度で高額な手法であることは否めず、途上国では、医療の脆弱さとともにPCR検査も十分にはできていないのではと思っています。

私の高校生の息子が昨年、高校のグループ研究でPCRを使った時も、え！高校で!?と普及の様に驚いていたのですが、やはり実験に不慣れな高校生には、大学研究室の助けを借りても正確な実験結果を出すことが難しかったらしく、まともな研究成果は得られませんでした。このことから、新型コロナに関してPCR検査数が増えないことについても、もちろん解決可能な課題がなおざりにされることは問題ですが、どこでも誰にでもできて、たちまち簡単に検査数が増えるようなものでもないなどは感じていました。

実はPCRは環境の研究にも用いられています。環境DNAを調べるためです。環境DNAとは、環境水中の生物の組織や糞に含まれるDNA。息子の高校での研究テーマも「PCR手法を用いた河川中の環境DNA検出による外来魚ブルーギルの分布」でした。新型コロナにステイアラートしながら、PCRから連想して環境中生物のことに少し思いを馳せてもらえればと思います。

※ポリメラーゼ連鎖反応 (JAFSスタッフ 川本 裕子)

イベント & 会員活動を再開

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、2月下旬以降、多くのイベントを中止・延期させていただきました。会員活動も停止状態でした。感染防止対策をとりつつ徐々に開催を計画し、活動も再開しますので、新しい日常の中でイベントや活動にご参加いただけましたら幸いです。

編集後記

学校がようやく再開。今現在の経済影響が小さいと見られてか簡単に休校されましたが、経済も含む全ての意味において、子どもと学校には未来に向けての大きな価値があります。（川）

暗い時、目はものを見始める（In a dark time, the eye begins to see）。阪神大震災の時にアメリカの精神科医がT・レトキの詩の一節を読んで被災者を励ました。あれから25年。コロナ禍の今も心に響く言葉です。（敏陽）

春の自宅に袋詰めマスクが届いた。「大阪のコロナ禍も深刻」と知った中国・上海のペン友が、帰国中の日本人留学生にメールで依頼した贈り物。上海への礼状を郵便局に持参すると「空路中断で扱えません」。国境閉鎖を失念したこのうかつさ！（督）

ク ラスター、オーバーシュートにロックダウン。新型コロナの報道では、聞き慣れぬ言葉のシャワー。そして毎日発表される感染者数に一喜一憂。こんな日々を懐かしく振り返ることができるときが来るのだろうか？（和）

加藤千洋さんの寄稿を読み、知人の僧侶に昔教わった話を思い出しました。お釈迦さまは信者の家で食べた豚肉にあたって亡くなったという説があるそうです。何だか人間的で、以来とても仏教を好きになりました。（黒）

A. 維持会費	年額1口	12,000円 (月額1,000円)
B. 賛助会費	年額1口	6,000円 (月額600円=振込手数料含む)
C. ジュニア会費 (高校生まで)	年額1口	1,000円
D. 団体会費	年額1口	20,000円
E. 法人賛助会費	年額1口	50,000円
会費・寄付の振り込み先		
郵便振込 00960-6-10835		
三菱UFJ銀行中之島支店 普通1007011		



募金にご協力をお願いします

アジアの安全な飲料水がない地域で
貧困に苦しむ人たちを支援する活動に使われます

郵便振替 00960-6-10835 アジア協会アジア友の会



HPもご覧ください



▲仏跡を訪ねて旅したインドで、名匠サタジット・レイ監督の映画「大地のうた」を思い出させてくれそうな仲の良い姉弟に出会った＝12～15頁に加藤千洋・元朝日新聞アジア総局長の特別寄稿「ガンジス川の風に吹かれて」④

◀表紙の写真 ロックダウン下で生活必需品の買出しをするネパール・カトマンズの住民。距離を保って行列しているが、枠内にきっちり入らないのが日本人と違う＝4月15日。4～11頁に関係特集記事

編集・発行：公益社団法人 アジア協会アジア友の会

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-2-14 肥後橋官報ビル5階

☎ 06-6444-0587 FAX 06-6444-0581

URL : <https://jafs.or.jp> E-mail : asia@jafs.or.jp

2020年7月142号 発行人：萩尾千里 編集人：村上公彦

広報企画委員長：法花敏郎

編集アドバイザー：松本 督、黒沢雅善

編集スタッフ：熱田典子、岩崎準一、大本和子、柿島裕、
金井英夫、川本裕子

印刷製本：あさひ高速印刷株式会社